

3-2 調査結果：若者の生活状況調査

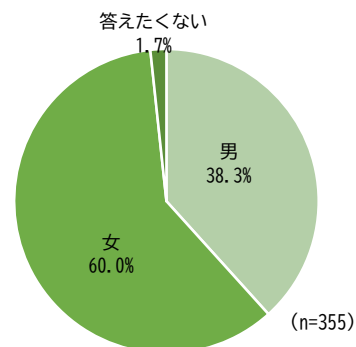
本章では、15～39 歳を対象とした「若者の生活状況調査」の結果を示す。

(1) 回答者のこと

- 回答者は、「女性」が 60.0%、「男性」が 38.3%となっている。
- 年齢は「10代」が 17.4%、「20代」が 28.3%、「30代」が 54.3%である。
- 回答者の居住地は、現在小諸市に住んでいる割合が 94.4%である。市外の居住地としては、「長野県」7人、「埼玉県」「東京都」がそれぞれ3人となっている。
- 居住地区をみると、「美南ガ丘小学校区」26.5%、「東小学校区」18.5%、「野岸小学校区」14.0%となっている。

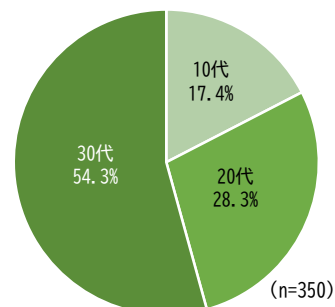
図表 44 性別

	人数	割合(%)
男	136	38.3
女	213	60.0
答えたくない	6	1.7
合計	355	100.0



図表 45 年齢

	人数	割合(%)
10代	61	17.4
20代	99	28.3
30代	190	54.3
合計	350	100.0



図表 46 小諸市に住んでいるか

	人数	割合(%)
はい	336	94.4
いいえ	20	5.6
合計	356	100.0

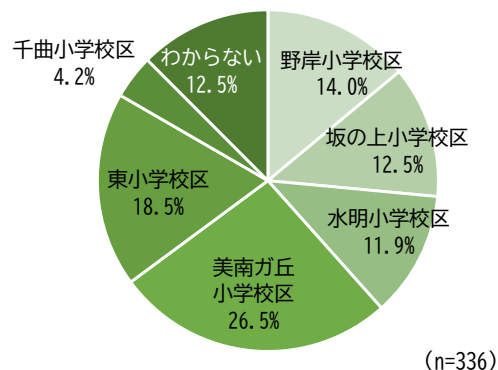
図表 47 回答対象者：いいえと答えた人

居住都道府県

	人数
長野県	7
埼玉県	3
東京都	3
千葉県	2
愛知県	1
山形県	1
新潟県	1
大分県	1
栃木県	1

図表 48 居住地区

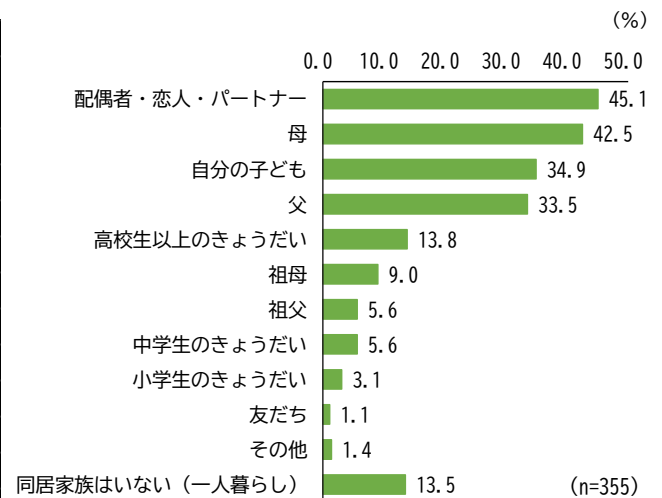
	人数	割合(%)
野岸小学校区	47	14.0
坂の上小学校区	42	12.5
水明小学校区	40	11.9
美南ガ丘小学校区	89	26.5
東小学校区	62	18.5
千曲小学校区	14	4.2
わからない	42	12.5
合計	336	100.0



- ・同居家族をみると、「配偶者・恋人・パートナー」45.1%、「母」42.5%、「自分の子ども」34.9%の順に割合が高くなっている
- ・回答時点での最終学歴をみると、「大学・大学院」が36.7%と最も割合が高い。

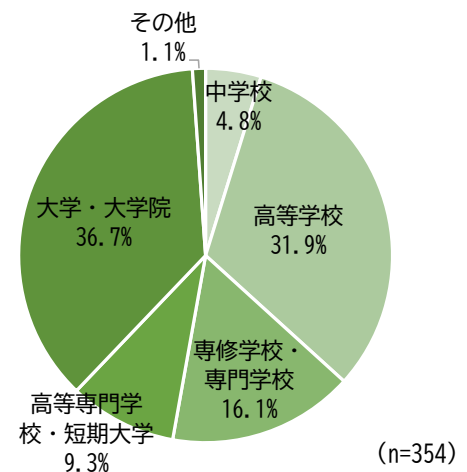
図表 49 同居家族〔複数回答〕

	人数	割合(%)
配偶者・恋人・パートナー	160	45.1
母	151	42.5
自分の子ども	124	34.9
父	119	33.5
高校生以上のきょうだい	49	13.8
祖母	32	9.0
祖父	20	5.6
中学生のきょうだい	20	5.6
小学生のきょうだい	11	3.1
友だち	4	1.1
その他	5	1.4
同居家族はいない（一人暮らし）	48	13.5
回答者数	355	



図表 50 学歴（在学中の場合は現在の在籍校）

	人数	割合(%)
中学校	17	4.8
高等学校	113	31.9
専修学校・専門学校	57	16.1
高等専門学校・短期大学	33	9.3
大学・大学院	130	36.7
その他	4	1.1
合計	354	100.0

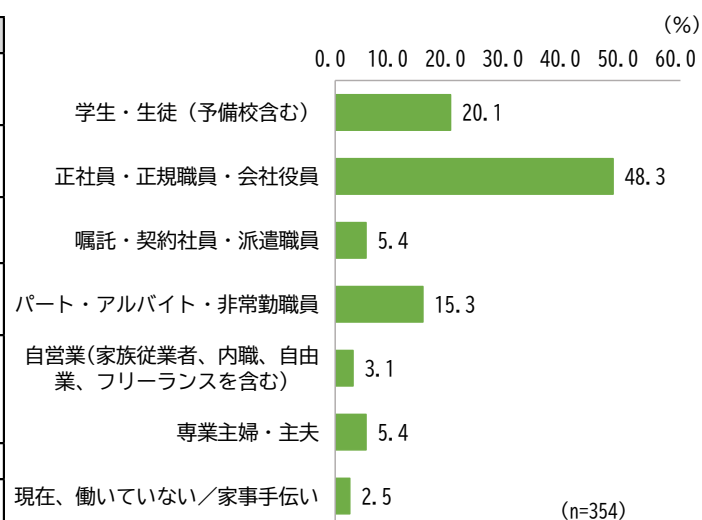


(2) 就労状況

- 回答者の職業をみると、「正社員・正規職員・会社役員」が 48.3%と最も割合が高い。次いで「学生・生徒」が 20.1%となっている。
- 回答者のうち、就業している人は 74.9%である。

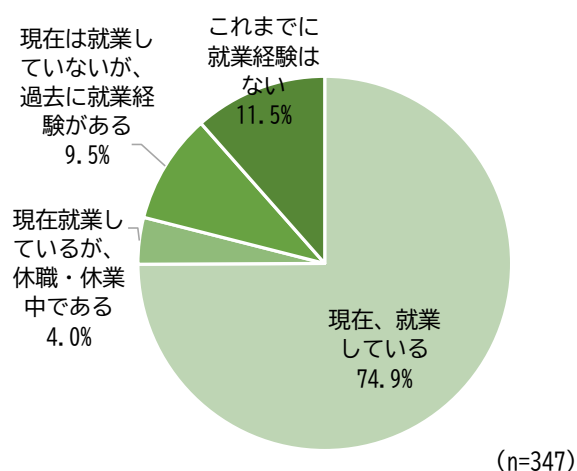
図表 51 職業

	人数	割合(%)
学生・生徒（予備校含む）	71	20.1
正社員・正規職員・会社役員	171	48.3
嘱託・契約社員・派遣職員	19	5.4
パート・アルバイト・非常勤職員	54	15.3
自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）	11	3.1
専業主婦・主夫	19	5.4
現在、働いていない／家事手伝い	9	2.5
合計	354	100.0



図表 52 就業経験

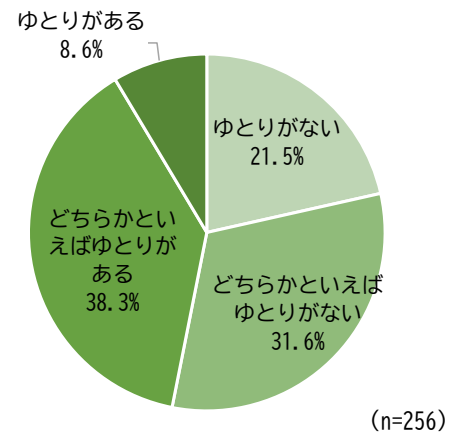
	人数	割合(%)
現在、就業している	260	74.9
現在就業しているが、休職・休業中である	14	4.0
現在は就業していないが、過去に就業経験がある	33	9.5
これまでに就業経験はない	40	11.5
合計	347	100.0



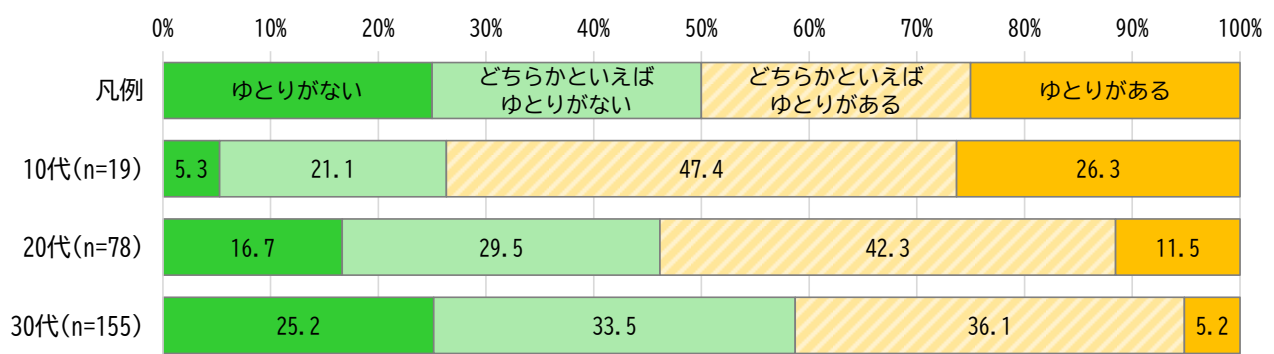
- 就業者に時間的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は53.1%である。年代別にみると、年齢が上がるにつれて時間的ゆとりがないという回答が増えている。
- 就業者に経済的ゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合が69.8%となっている。年代別にみると、10代の就業者で「ゆとりがある」の割合が高い傾向にある。

図表 53 回答対象者：就業している人 時間的ゆとりがあるか

	人数	割合(%)
ゆとりがない	55	21.5
どちらかといえばゆとりがない	81	31.6
どちらかといえばゆとりがある	98	38.3
ゆとりがある	22	8.6
合計	256	100.0

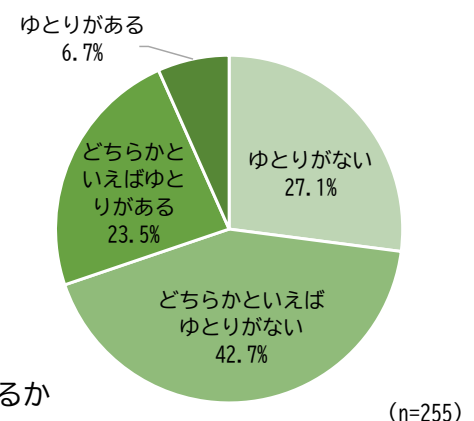


図表 54 回答対象者：就業している人 年代別 時間的ゆとりがあるか

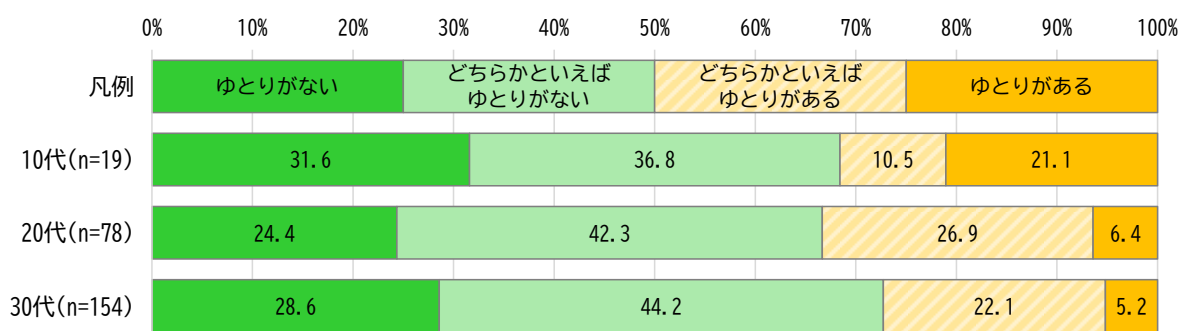


図表 55 回答対象者：就業している人 経済的ゆとりがあるか

	人数	割合(%)
ゆとりがない	69	27.1
どちらかといえばゆとりがない	109	42.7
どちらかといえばゆとりがある	60	23.5
ゆとりがある	17	6.7
合計	255	100.0

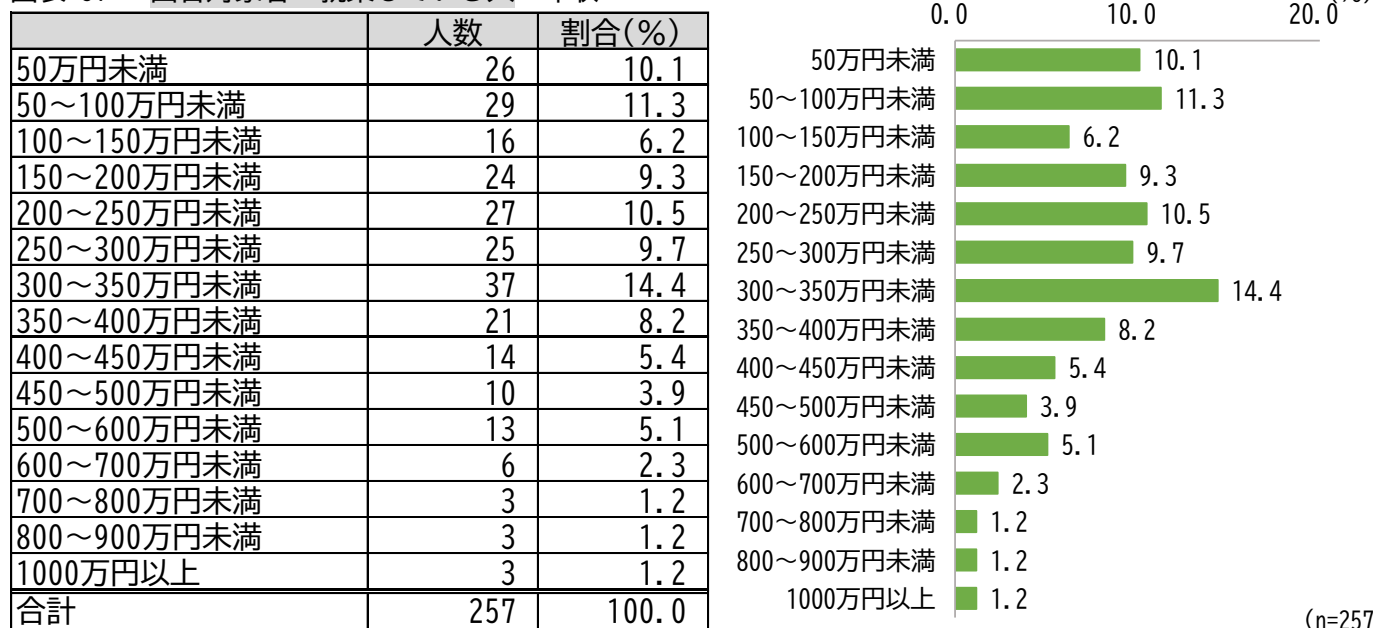


図表 56 回答対象者：就業している人 年代別 経済的ゆとりがあるか

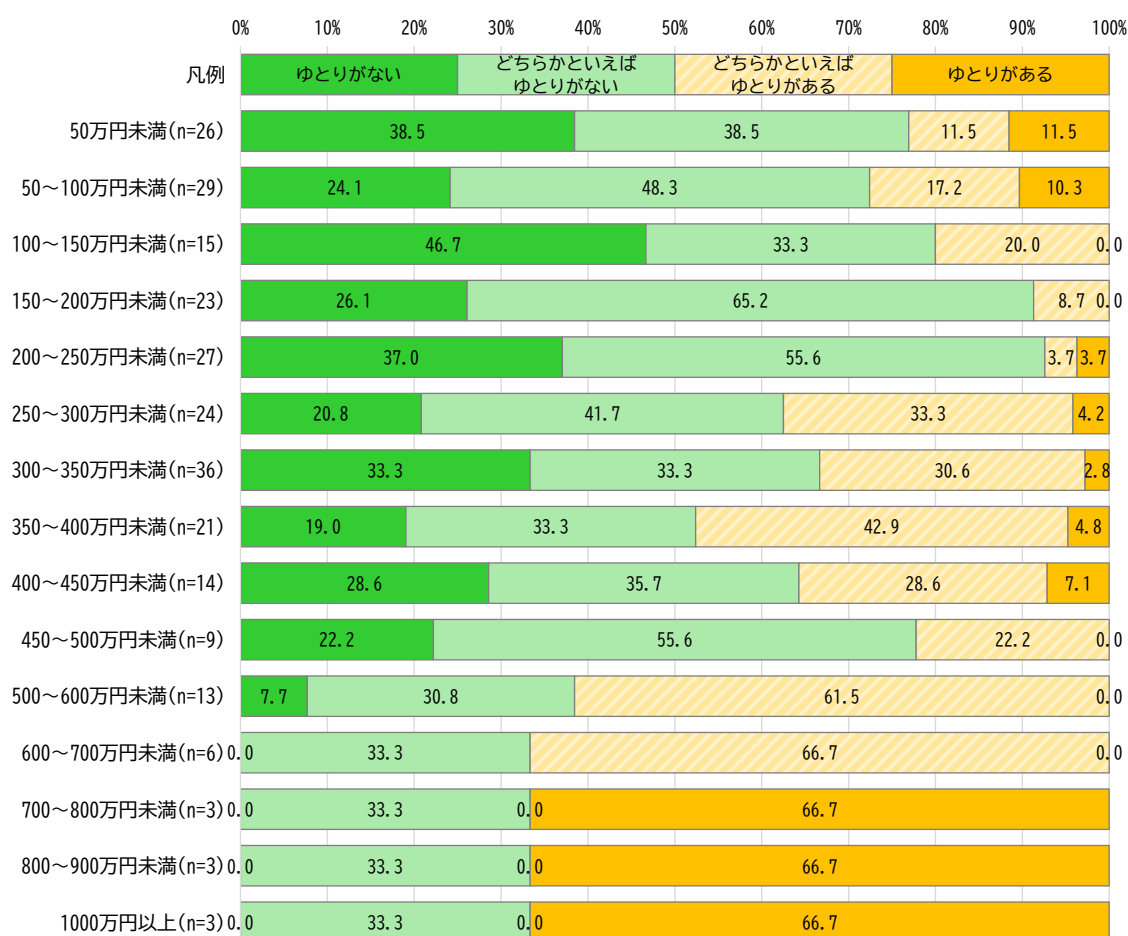


- 年収では「300～350万円未満」が14.4%で、次いで「50～100万円未満」が11.3%である。250万円未満で47.4%と約半数を占めている。
- 年収別に経済的ゆとりをみると、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」の割合は、250万円未満で高い傾向にある。

図表 57 回答対象者：就業している人 年収



図表 58 回答対象者：就業している人 年収別 経済的ゆとり



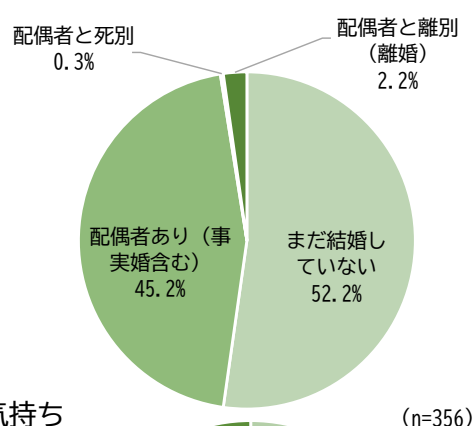
(3) 結婚・出産・子育てについて

1) 結婚の状況や意向

- 回答者のうち、結婚していない人は52.2%である。
- 結婚していない人のうち「いずれ結婚したい」と考えている人は56.5%である。「結婚するつもりはない」は12.4%、「わからない」は31.2%である。
- 結婚していない理由は「適当な相手にめぐりあっていないから」の割合が最も高く47.6%、次いで「経済的に余裕がないから」38.8%、「結婚するには若すぎるから」35.9%となっている。

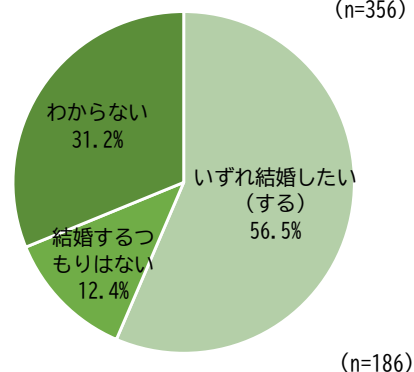
図表 59 現在、結婚しているか

	人数	割合(%)
まだ結婚していない	186	52.2
配偶者あり（事実婚含む）	161	45.2
配偶者と死別	1	0.3
配偶者と離別（離婚）	8	2.2
合計	356	100.0



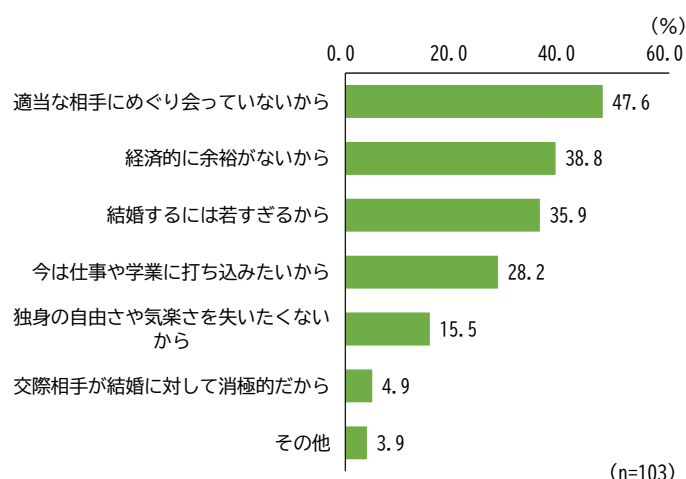
図表 60 回答対象者：まだ結婚していない人 結婚についての気持ち

	人数	割合(%)
いずれ結婚したい（する）	105	56.5
結婚するつもりはない	23	12.4
わからない	58	31.2
合計	186	100.0



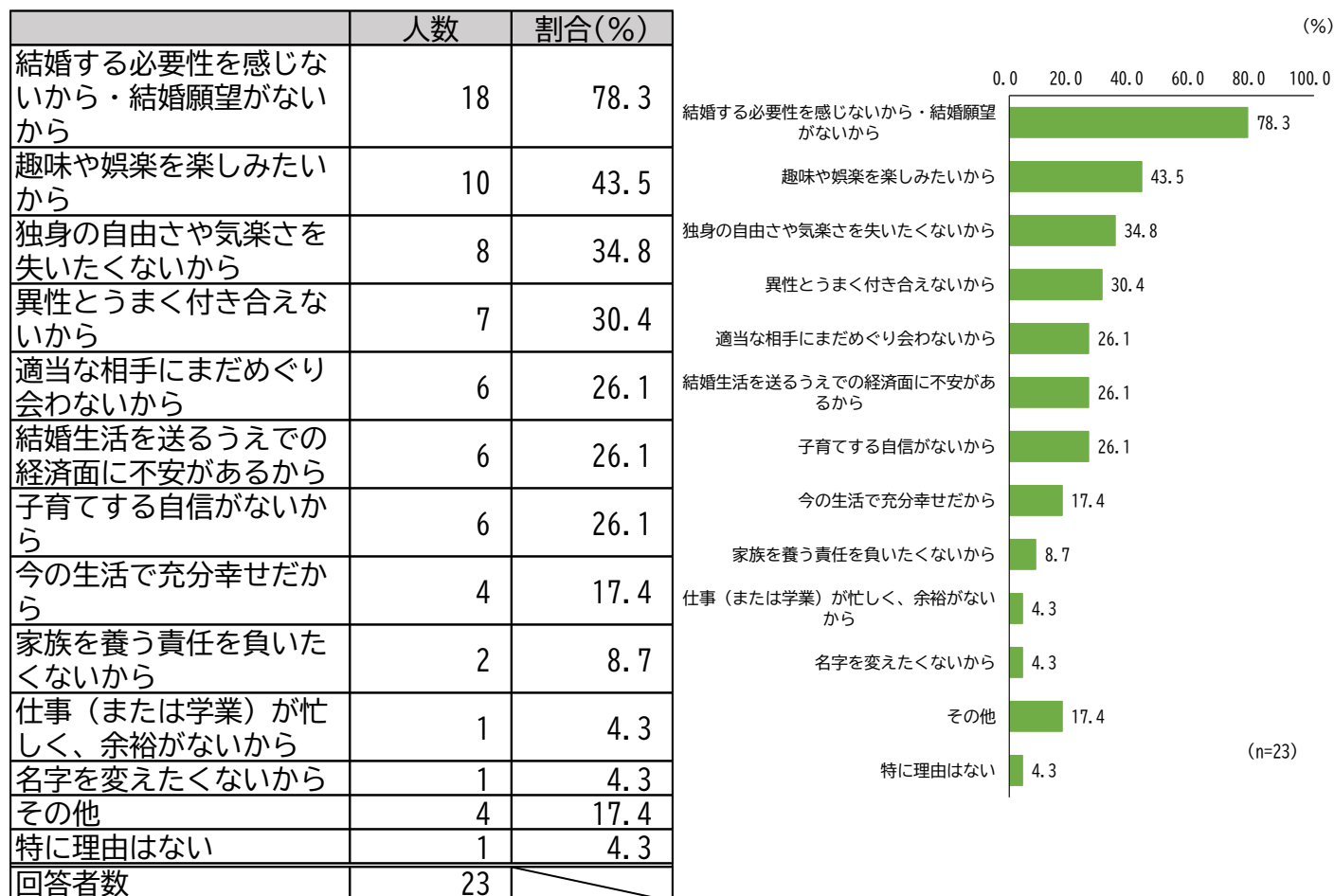
図表 61 回答対象者：まだ結婚していない人 結婚していない理由【複数回答】

	人数	割合(%)
適当な相手にめぐり会っていないから	49	47.6
経済的に余裕がないから	40	38.8
結婚するには若すぎるから	37	35.9
今は仕事や学業に打ち込みたいから	29	28.2
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	16	15.5
交際相手が結婚に対して消極的だから	5	4.9
その他	4	3.9
回答者数	103	

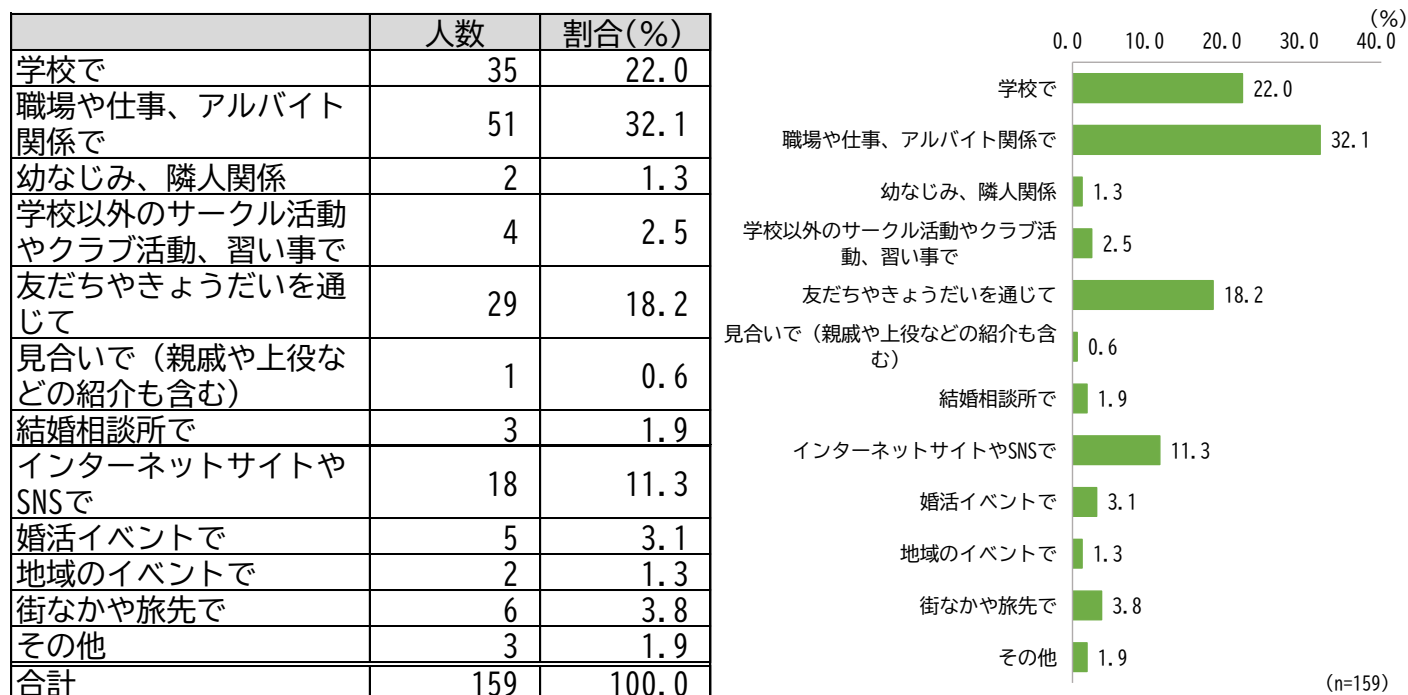


- ・結婚するつもりがない理由は、「結婚する必要性を感じないから」の割合が最も高く 78.3%、次いで「趣味や娯楽を楽しみたいから」が 43.5%となっている。
- ・夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事、アルバイト関係で」の割合が最も高く 32.1%、次いで「学校で」22.0%、「友だちや兄弟を通じて」18.2%となっている。

図表 62 回答対象者：結婚するつもりがない人 結婚するつもりがない理由〔複数回答〕



図表 63 回答対象者：配偶者あり（事実婚含む） 知り合ったきっかけ

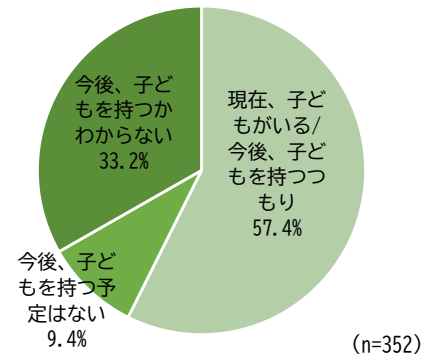


2) 子どもの状況・意向

- 子どもについては、「現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつもり」は57.4%であった。「今後、子どもを持つかわからない」が33.2%、「今後、子どもを持つ予定はない」は9.4%である。
- 現在の子どもの数は「0人」の割合が34.3%と最も高く、次いで「2人」28.9%、「1人」27.4%となっている。
- 理想の子どもの数は「2人」が46.2%、「1人」が40.9%である。平均は2.57人となっている。
- 実際に持つつもり子どもの数は「2人」が65.2%と半数以上を占める。平均は1.98人となっている。

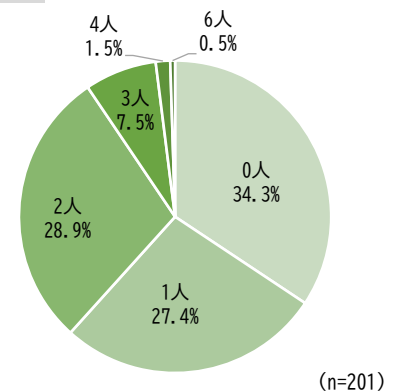
図表 64 自身の子どもについて

	人数	割合(%)
現在、子どもがいる/今後、子どもを持つつもり	202	57.4
今後、子どもを持つ予定はない	33	9.4
今後、子どもを持つかわからない	117	33.2
合計	352	100.0



図表 65 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつむりの人 現在の子どもの数

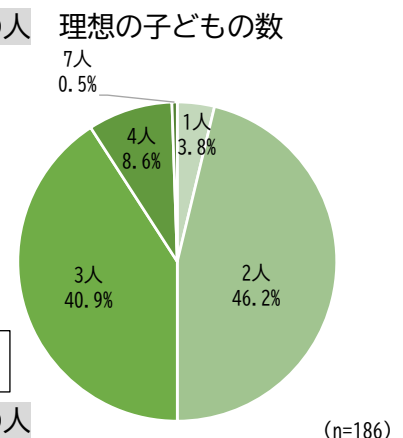
	人数	割合(%)
0人	69	34.3
1人	55	27.4
2人	58	28.9
3人	15	7.5
4人	3	1.5
6人	1	0.5
合計	201	100.0



図表 66 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつむりの人 理想の子どもの数
※出産や子育てのハードルが無いと仮定した場合に欲しい子どもの数

	人数	割合(%)
1人	7	3.8
2人	86	46.2
3人	76	40.9
4人	16	8.6
7人	1	0.5
合計	186	100.0

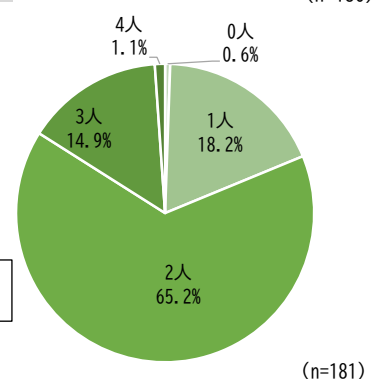
平均：2.57人



図表 67 回答対象者：現在、子どもがいる／今後、子どもを持つつむりの人 実際に持つつもり（予定）の子どもの数

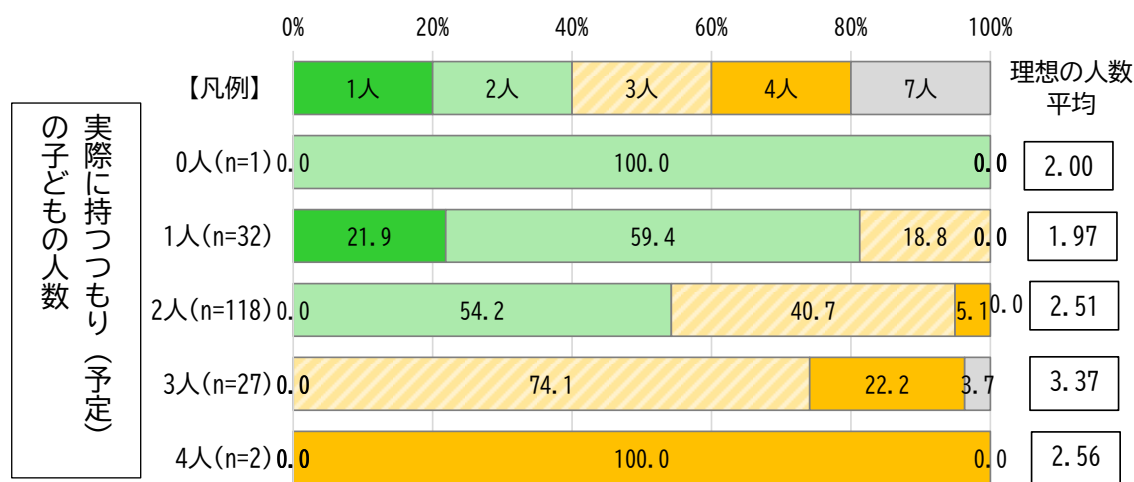
	度数	パーセント
0人	1	0.6
1人	33	18.2
2人	118	65.2
3人	27	14.9
4人	2	1.1
合計	181	100.0

平均：1.98人

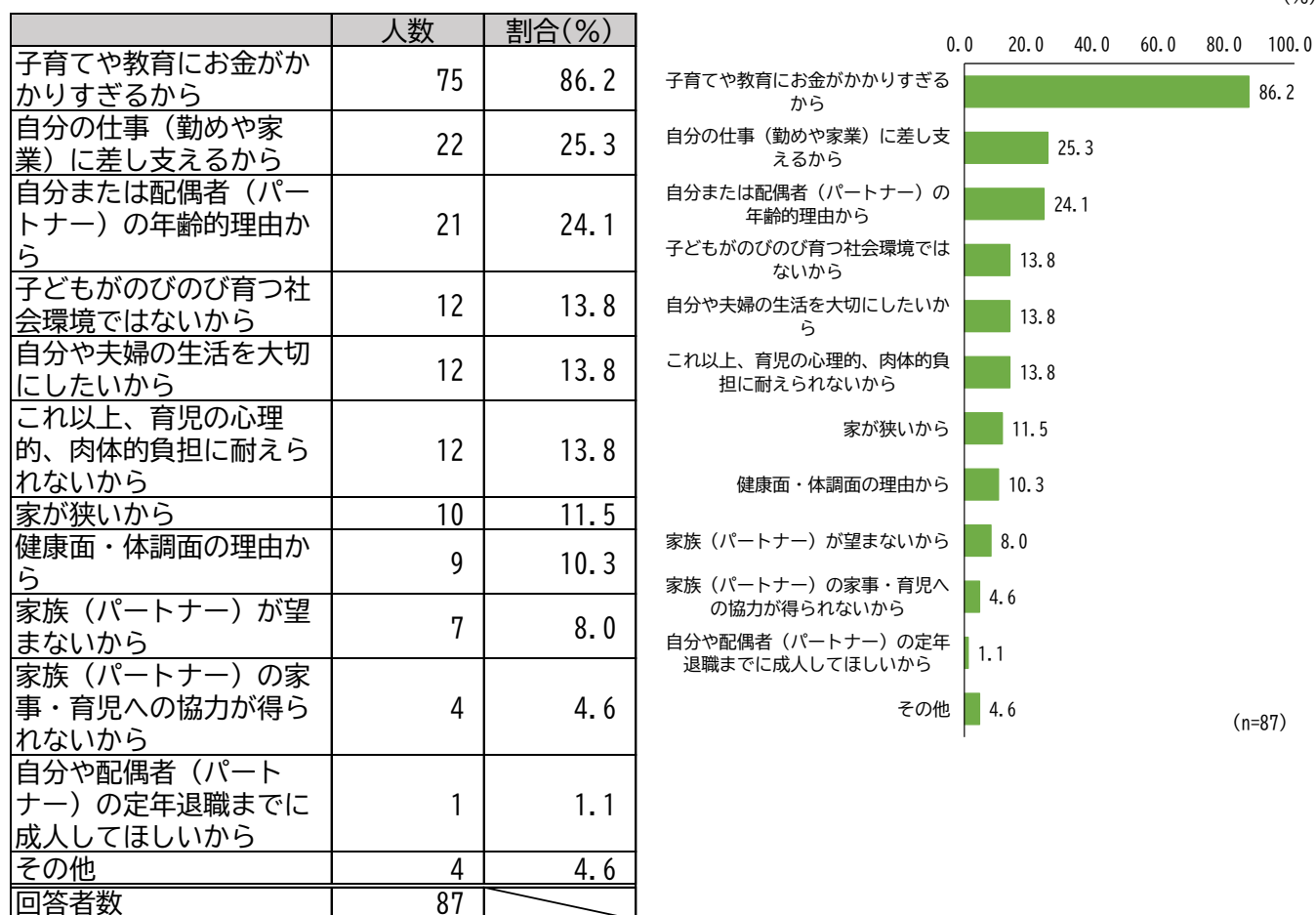


- 実際に持つつもり（予定）の子ども的人数別に理想の子ども的人数をみると、実際に持つつもり（予定）の子どもが「2人」の人の理想は平均2.51人、「3人」の人の理想は平均3.37人となっている。
- 理想の人数より実際の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く86.2%となっている。

図表 68 回答対象者：現在、子どもがいる/今後、子どもを持つつもりの人
実際に持つつもり（予定）の子ども的人数別 理想の子どもの数

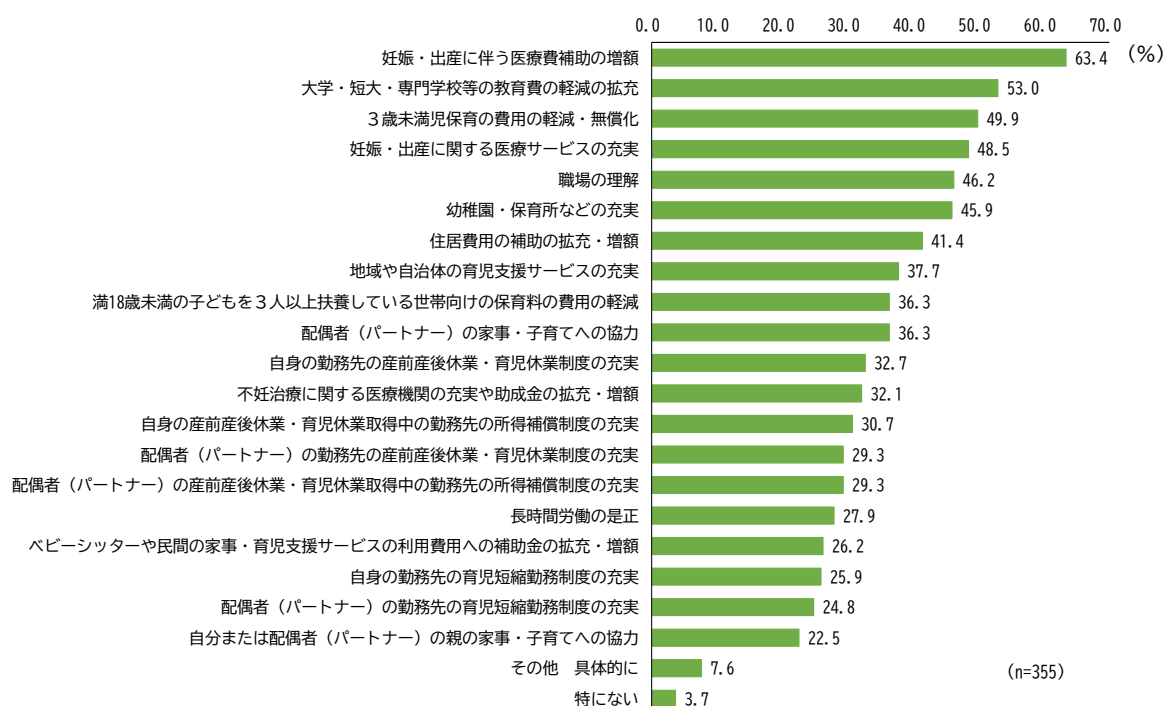


図表 69 回答対象者：「実際に持つつもり（予定）の子ども数」が「理想の子ども数」より少ない人
理想の子ども数が多い理由【複数回答】



- ・出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」の割合が最も高く、次いで「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」など、経済的負担の軽減に関する取組みが上位となっている。

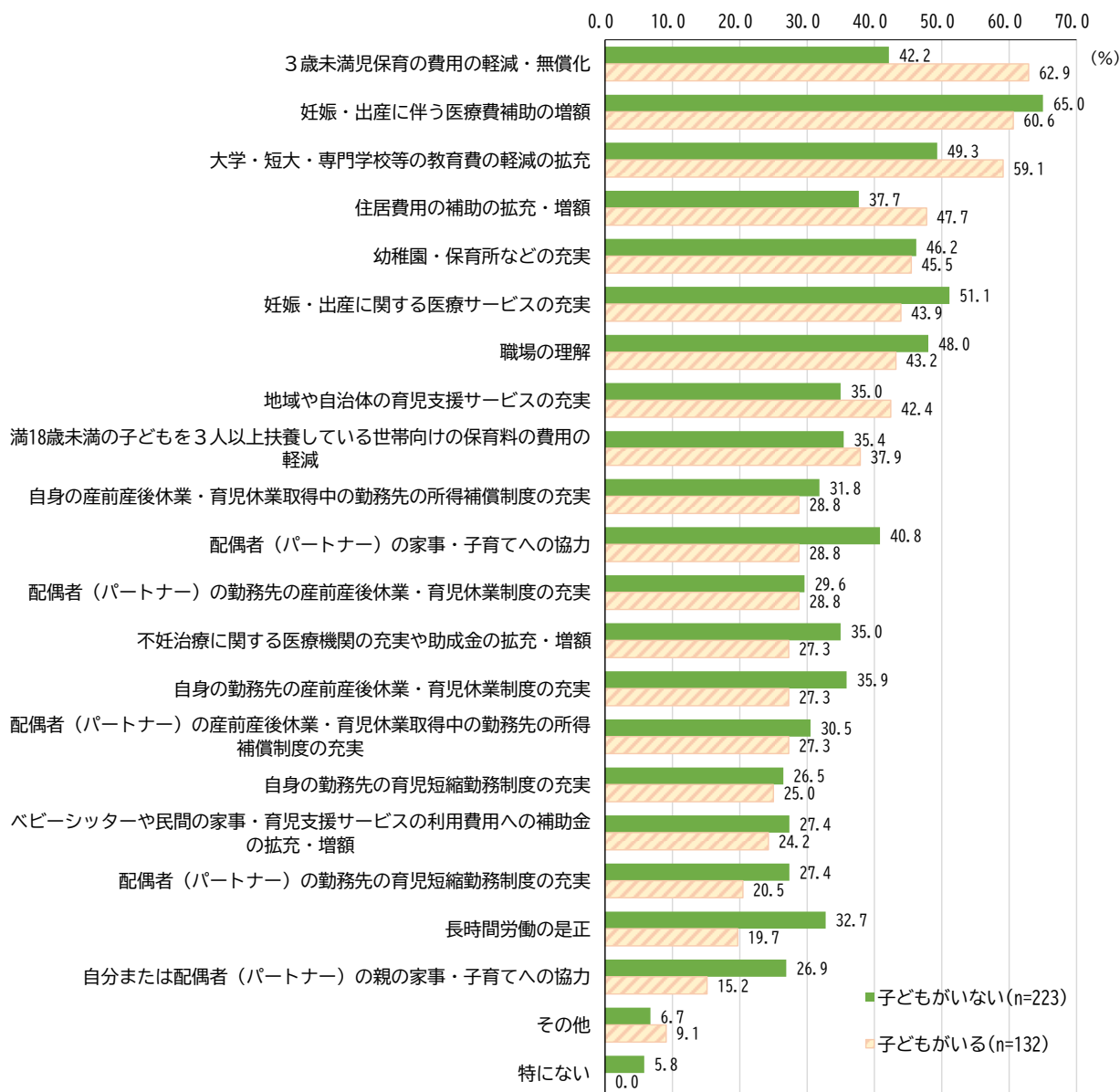
図表 70 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うこと〔複数回答〕



	人数	割合 (%)
妊娠・出産に伴う医療費補助の増額	225	63.4
大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充	188	53.0
3歳未満児保育の費用の軽減・無償化	177	49.9
妊娠・出産に関する医療サービスの充実	172	48.5
職場の理解	164	46.2
幼稚園・保育所などの充実	163	45.9
住居費用の補助の拡充・増額	147	41.4
地域や自治体の育児支援サービスの充実	134	37.7
満18歳未満の子どもを3人以上扶養している世帯向けの保育料の費用の軽減	129	36.3
配偶者（パートナー）の家事・子育てへの協力	129	36.3
自身の勤務先の産前産後休業・育児休業制度の充実	116	32.7
不妊治療に関する医療機関の充実や助成金の拡充・増額	114	32.1
自身の産前産後休業・育児休業取得中の勤務先の所得補償制度の充実	109	30.7
配偶者（パートナー）の勤務先の産前産後休業・育児休業制度の充実	104	29.3
配偶者（パートナー）の産前産後休業・育児休業取得中の勤務先の所得補償制度の充実	104	29.3
長時間労働の是正	99	27.9
ベビーシッターや民間の家事・育児支援サービスの利用費用への補助金の拡充・増額	93	26.2
自身の勤務先の育児短縮勤務制度の充実	92	25.9
配偶者（パートナー）の勤務先の育児短縮勤務制度の充実	88	24.8
自分または配偶者（パートナー）の親の家事・子育てへの協力	80	22.5
その他 具体的に	27	7.6
特にない	13	3.7
回答者数	355	

- 子どもの有無別に、出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、子どもがいる人は「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」の順に割合が高くなっている。

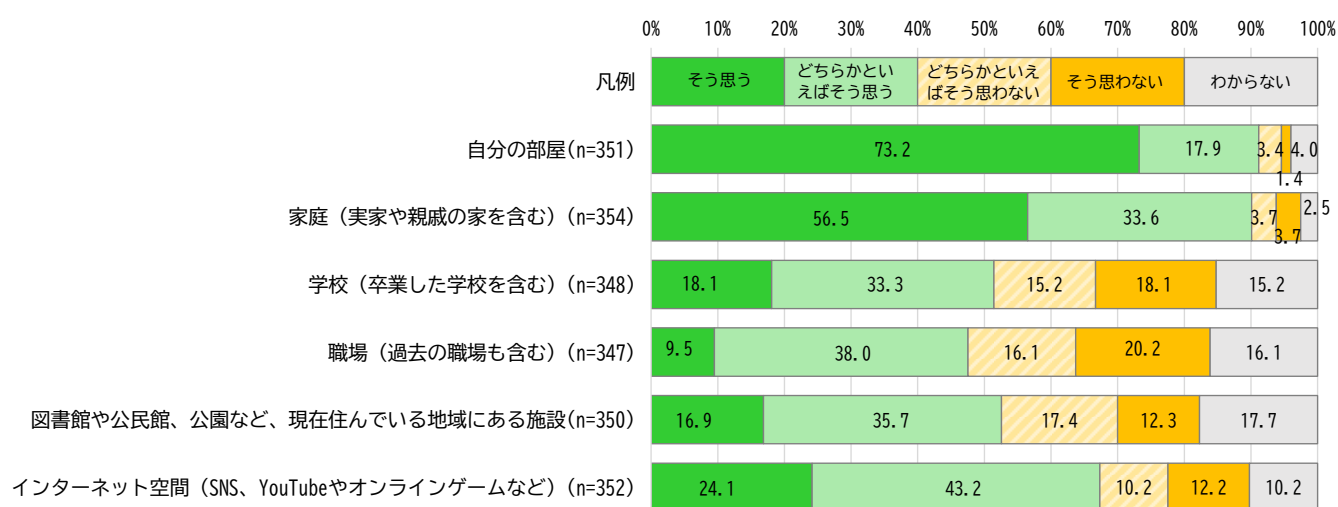
図表 71 子どもの有無別 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うこと
〔複数回答〕子どもがいる人の割合が高い順



(4) 日常的な居場所、普段の活動

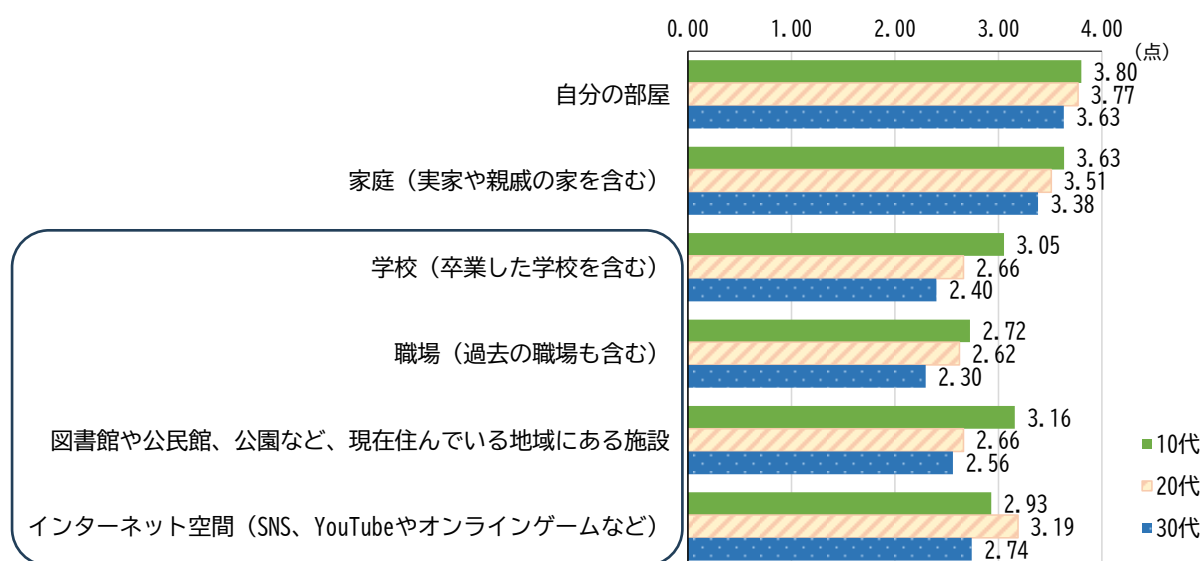
- 提示された場所が自身にとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるかをきくと、「そう思う」の割合が最も高いのは「自分の部屋」73.2%、次いで「家庭」56.5%となっている。また「インターネット空間」を「そう思う」と答える割合は24.1%で、「どちらかといえばそう思う」を含めると67.3%となっている。
- 年代別にみると、「学校（卒業した学校を含む）」「職場（過去の職場も含む）」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」「インターネット空間」は年代によって違いがみられる。10代は「学校」「職場」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」の得点が高くなっており、20代は「インターネット空間」の得点が高くなっている。

図表 72 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※以降の分析は、「そう思う」4点、「どちらかといえばそう思う」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点とし、わからないは除き得点を算出

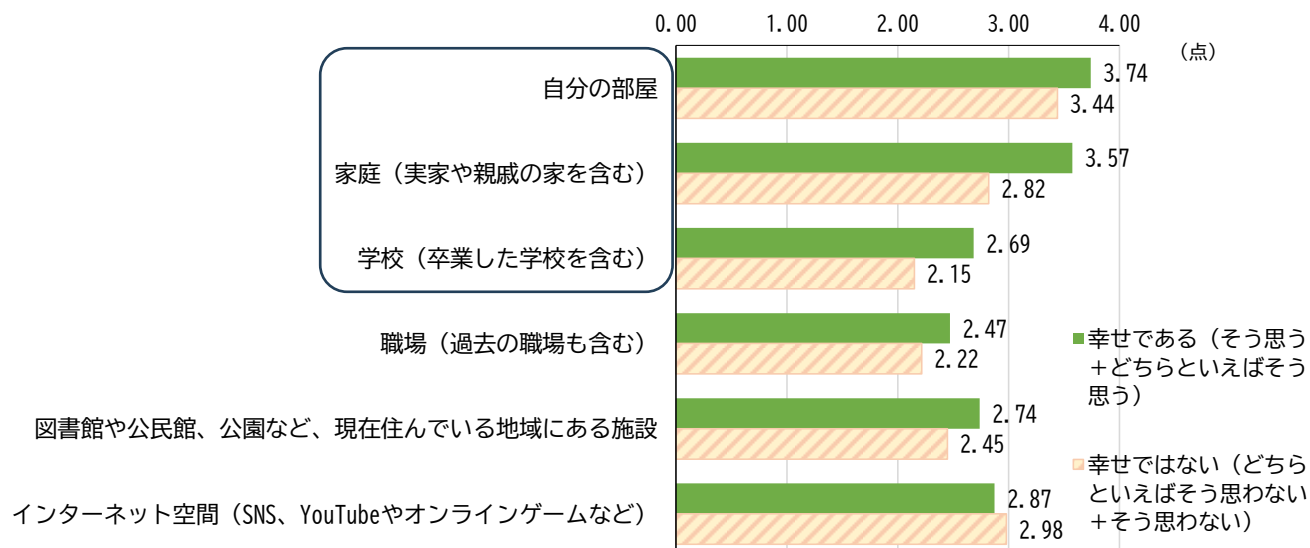
図表 73 年代別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

- 幸せであると回答した人は、「自分の部屋」「家庭（実家や親戚の家を含む）」「学校（卒業した学校を含む）」を居場所と回答している傾向にある。
- 孤独を感じていると回答した人は、「自分の部屋」「家庭（実家や親戚の家を含む）」「学校（卒業した学校を含む）」「職場（過去の職場も含む）」がほっとできる居場所ではないと回答している。

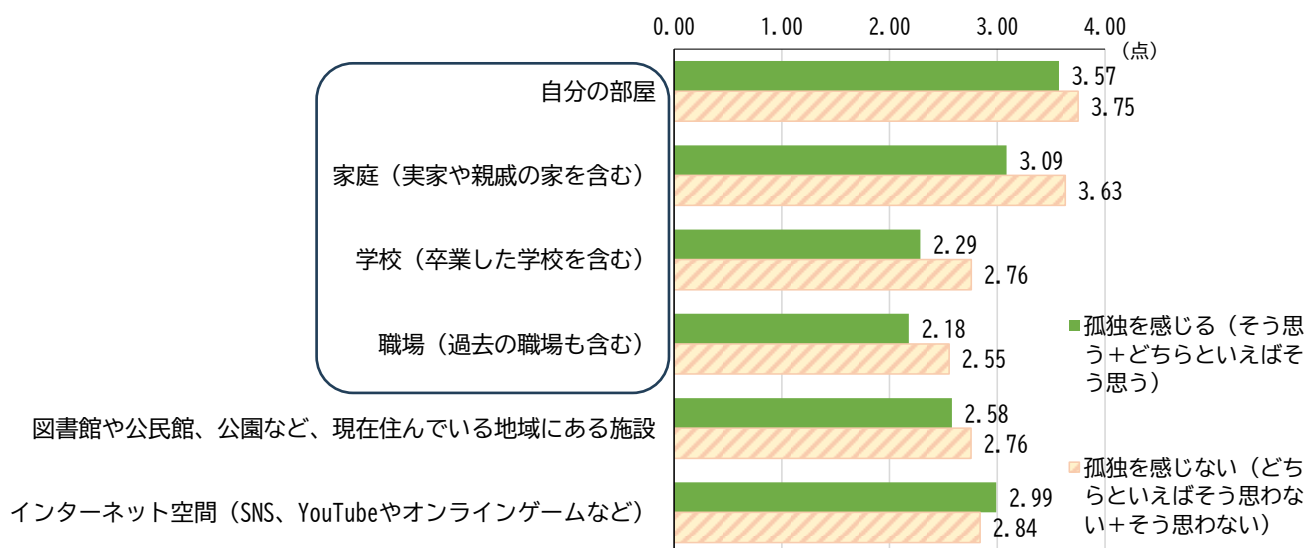
図表 74 幸福度別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

※「幸せである」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答と「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答に分け、得点を算出した。

図表 75 孤独感別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか

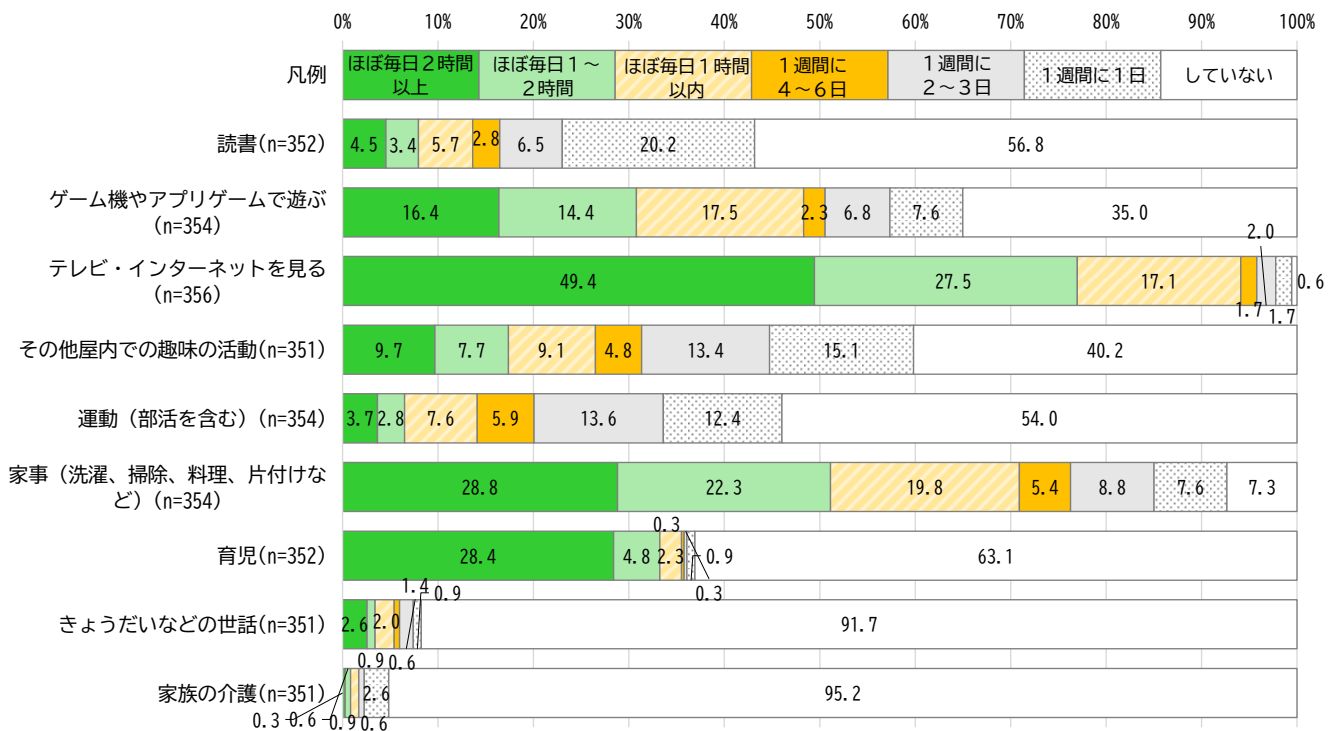


※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

※「孤独を感じている」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答と「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という回答に分け、得点を算出した。

- 普段の活動では、「テレビ・インターネットを見る」「ゲームで遊ぶ」に費やす時間が比較的多くなっている。
- 「家事」を毎日1時間以上する割合は51.1%である。また「兄弟姉妹の世話」を毎日1時間以上する割合は3.5%となっている。

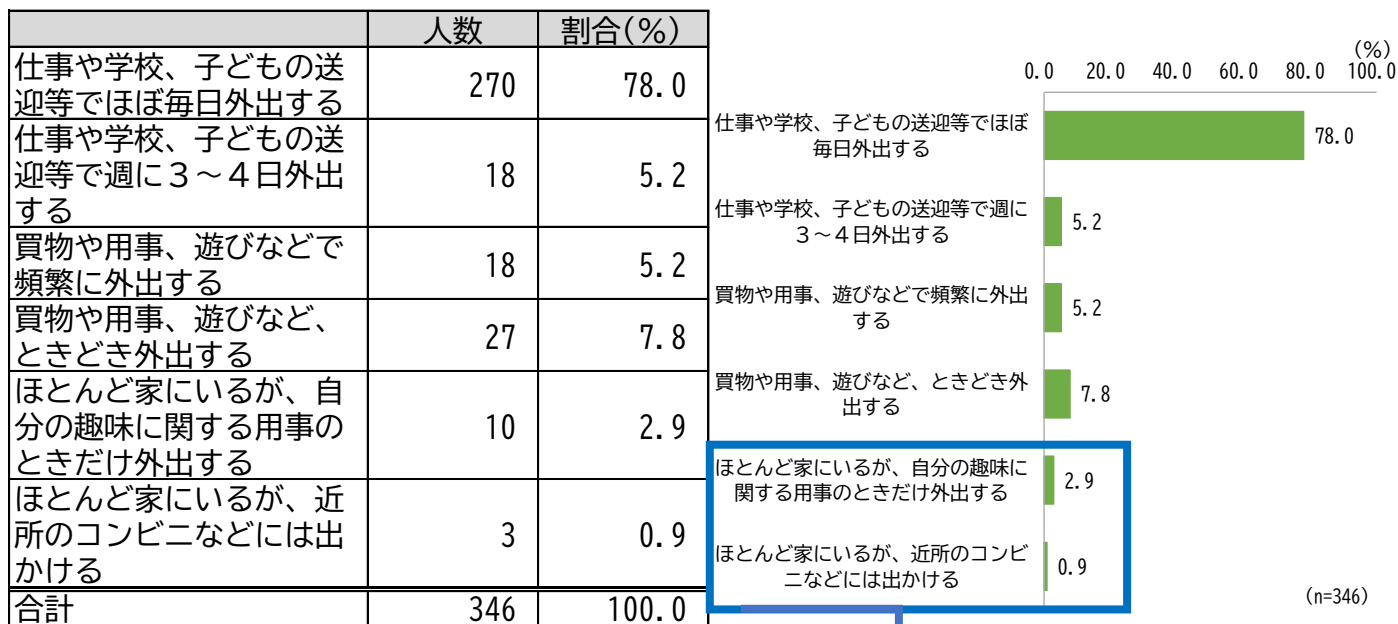
図表 76 活動頻度



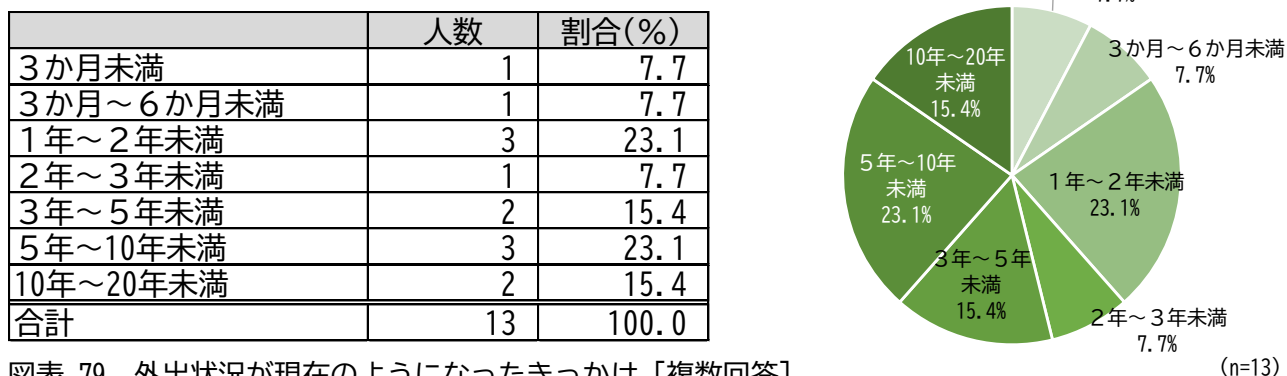
(5) 外出状況

- 日常的な外出頻度は、「ほぼ毎日外出する」の割合が最も高く 78.0%である。一方、「ほとんど家にいる」は 3.8%である。
- 「ほとんど家にいる」人がそのような状態になってどれくらいの期間かを聞いたところ、「1年～2年未満」「5～10年未満」がそれぞれ 23.1%となっている。
- 外出しない状況となったきっかけは「外出する必要がなかったため」が 50.0%と最も高い。

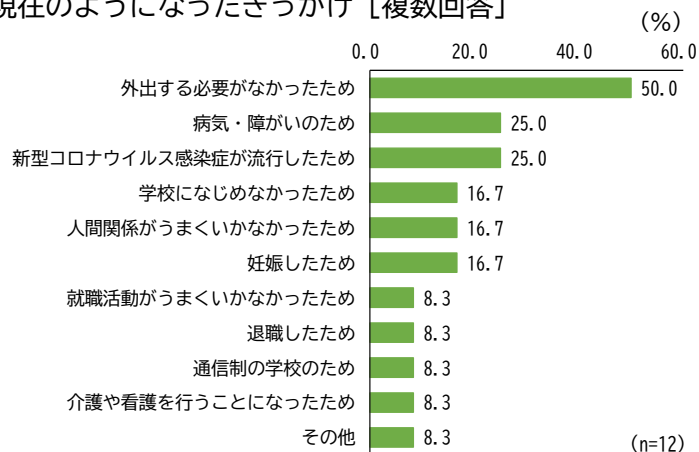
図表 77 ふだんどれくらい外出するか



図表 78 回答対象者：ほとんど家にいる人
外出の状況が現在の状態となってどれくらいか



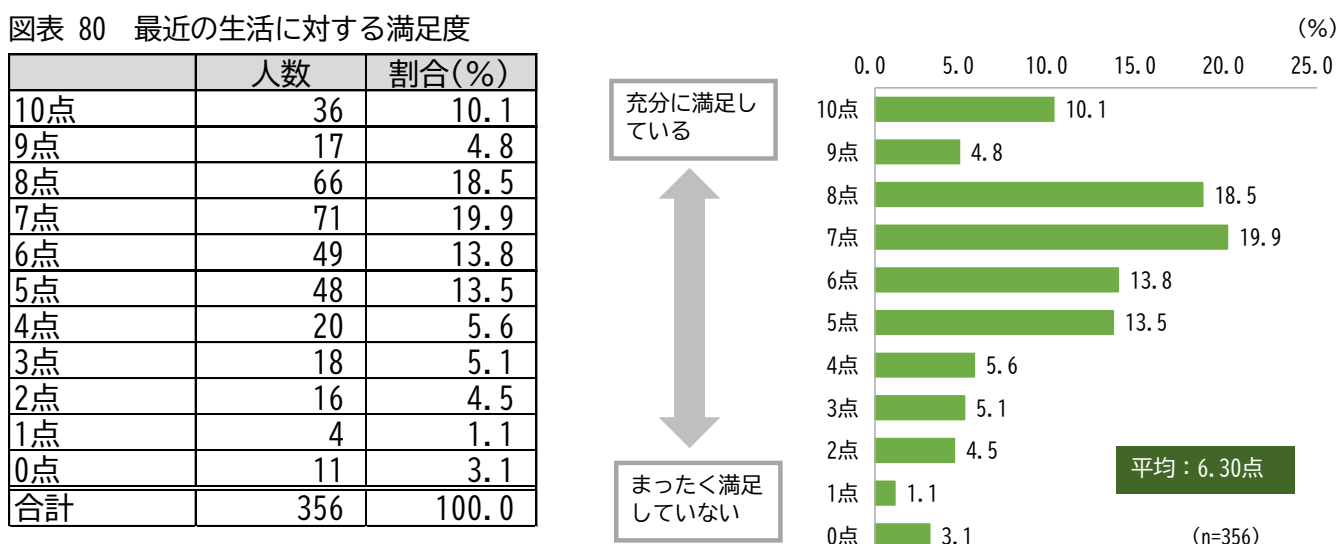
図表 79 外出状況が現在のようになったきっかけ〔複数回答〕



(6) 生活の満足度

- 生活に対する満足度について、0～10点で聞いたところ、平均は6.30点である。
- 年齢別にみると、年代が上がるにつれて生活満足度は低下傾向にある。
- 職業別では、「パート・アルバイト・非常勤職員」「自営業」「現在、働いていない／家事手伝い」で生活満足度が低くなっている。
- 時間的、経済的にゆとりがないと回答した人や年収が低い層で生活満足度が特に下がっている。

図表 80 最近の生活に対する満足度



図表 81 属性別 最近の生活に対する満足度

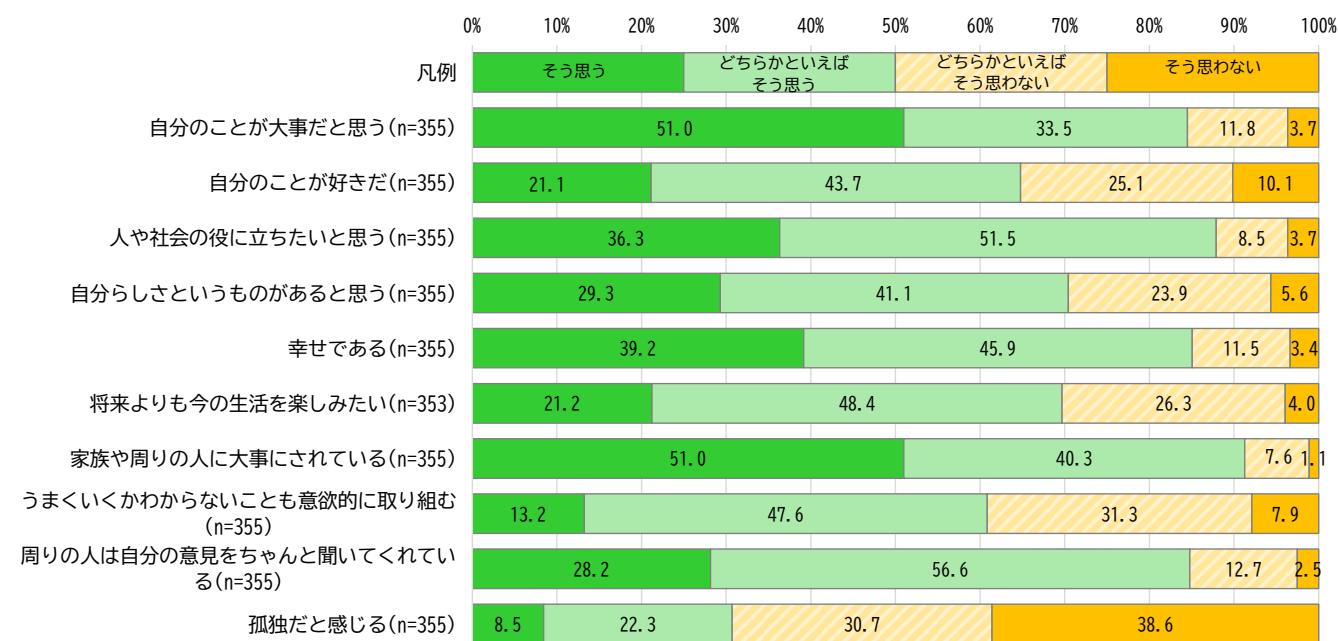
属性		得点(点)	全体(6.30点)との差分
年代	10代(n=61)	7.16	0.86
	20代(n=99)	6.55	0.25
	30代(n=190)	5.88	-0.42
職業	学生・生徒(予備校含む)(n=71)	7.35	1.05
	正社員・正規職員・会社役員(n=171)	6.23	-0.07
	嘱託・契約社員・派遣職員(n=19)	5.84	-0.46
	パート・アルバイト・非常勤職員(n=54)	5.67	-0.63
	自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)(n=11)	5.00	-1.30
	専業主婦・主夫(n=19)	7.32	1.02
	現在、働いていない／家事手伝い(n=9)	3.33	-2.97
時間的ゆとり	ゆとりがない(n=55)	4.82	-1.48
	どちらかといえばゆとりがない(n=81)	6.14	-0.16
	どちらかといえばゆとりがある(n=98)	6.71	0.41
	ゆとりがある(n=22)	6.77	0.47
経済的ゆとり	ゆとりがない(n=69)	4.90	-1.40
	どちらかといえばゆとりがない(n=109)	6.10	-0.20
	どちらかといえばゆとりがある(n=60)	7.20	0.90
	ゆとりがある(n=17)	7.53	1.23

属性		得点(点)	全体(6.30点)との差分
年収	50万円未満(n=26)	5.73	-0.57
	50～100万円未満(n=29)	6.21	-0.09
	100～150万円未満(n=16)	5.38	-0.93
	150～200万円未満(n=24)	5.92	-0.38
	200～250万円未満(n=27)	6.56	0.26
	250～300万円未満(n=25)	5.72	-0.58
	300～350万円未満(n=37)	6.16	-0.14
	350～400万円未満(n=21)	5.95	-0.35
	400～450万円未満(n=14)	6.36	0.06
	450～500万円未満(n=10)	6.20	-0.10
	500～600万円未満(n=13)	6.15	-0.15
	600～700万円未満(n=6)	6.50	0.20
	700～800万円未満(n=3)	6.33	0.03
	800～900万円未満(n=3)	7.67	1.37
	1000万円以上(n=3)	7.33	1.03

※全体 6.30 点と比較して、0.5 点以上低い項目が網掛けになっている。

- 現在の自分が好きかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合は64.8%となっている。
- 孤独と感ずることがあるかについては「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせた割合は69.3%である。
- 自分自身のことと生活満足度の得点との関係を見ると、どの項目においても、肯定的な考えの人と否定的な考えの人で生活満足度に差がみられる。特に違いがあるのは「幸せである」「家族や周りの人に大事にされている」「人や社会の役に立ちたいと思う」などであり、否定的回答をした層で生活満足度が低い。

図表 82 自分自身に対する考えなど



図表 83 自分自身に対する考えと生活満足度との関係

属性		生活満足度 得点 (点)	全体(6.30 点)との差分	肯定と否定の 得点の差分
自分のことが大事だと思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=300)	6.58	0.28	1.71
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=55)	4.87	-1.43	
自分のことが好きだ	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=230)	6.84	0.54	1.50
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=125)	5.34	-0.96	
人や社会の役に立ちたいと思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=312)	6.56	0.26	2.00
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=43)	4.56	-1.74	
自分らしさというものがあると思う	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=250)	6.69	0.39	1.27
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=105)	5.42	-0.88	
幸せである	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=302)	6.77	0.47	3.05
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=53)	3.72	-2.58	
将来よりも今の生活を楽しみたい	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=246)	6.67	0.37	1.12
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=107)	5.55	-0.75	
家族や周りの人に大事にされている	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=324)	6.52	0.22	2.32
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=31)	4.19	-2.11	
うまくいくかわからないことも意欲的に取り組む	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=216)	6.80	0.50	1.23
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=139)	5.57	-0.73	
周りの人は自分の意見をちゃんと聞いてくれている	そう思う+どちらかといえばそう思う (n=301)	6.58	0.28	1.73
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=54)	4.85	-1.45	
孤独だと感じる	そう思+どちらかといえばそう思う (n=109)	5.13	-1.17	-1.71
	どちらかといえばそう思わない+そう思わない (n=246)	6.84	0.54	

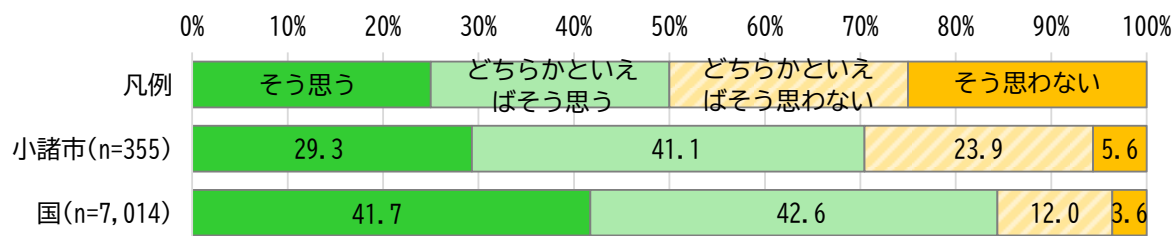
自分に対する考え 内閣府調査との比較

〈参考：令和4年度 内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」との比較〉

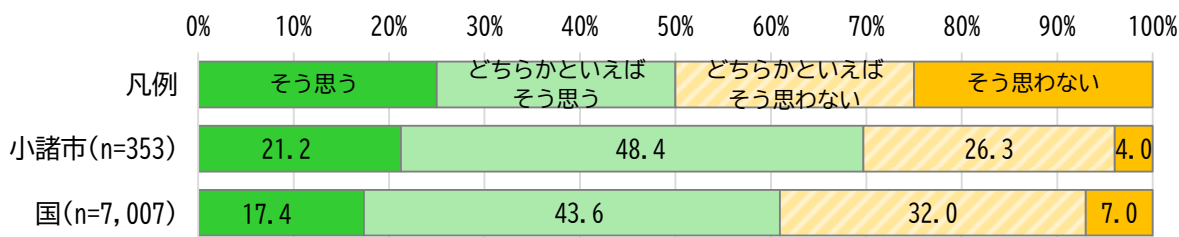
■内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」実施概要
 ・実施時期……令和4年11月
 ・対象……15～39歳（令和4年4月1日現在）
 ・有効回収数……7,035

- ・自分には自分らしさがあるについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の84.3%に比べて小諸市は70.4%で、13.9ポイント低い。
- ・将来よりも今の生活を楽しみたいについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の61.0%に比べて小諸市は69.6%で、8.6ポイント高い。
- ・現在の自分が好きかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の60.3%に比べて小諸市は64.8%で、4.5ポイント高い。
- ・幸せであるかについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は国の86.1%に比べて小諸市は85.1%で、同水準となっている。

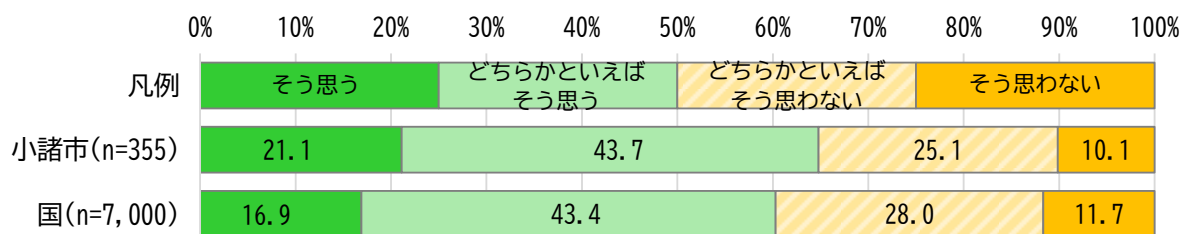
図表 84 自分には自分らしさがある



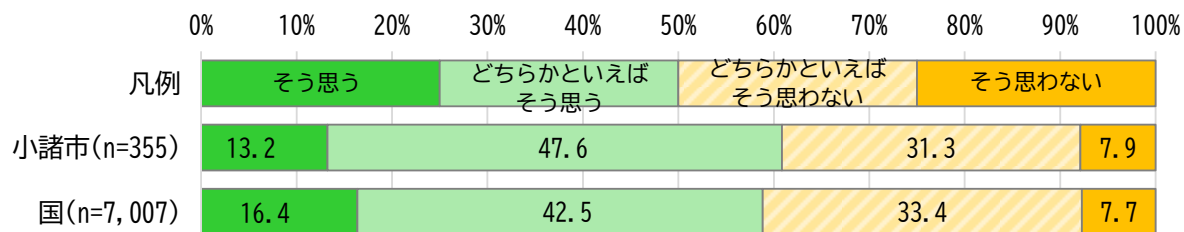
図表 85 将来よりも今の生活を楽しみたい



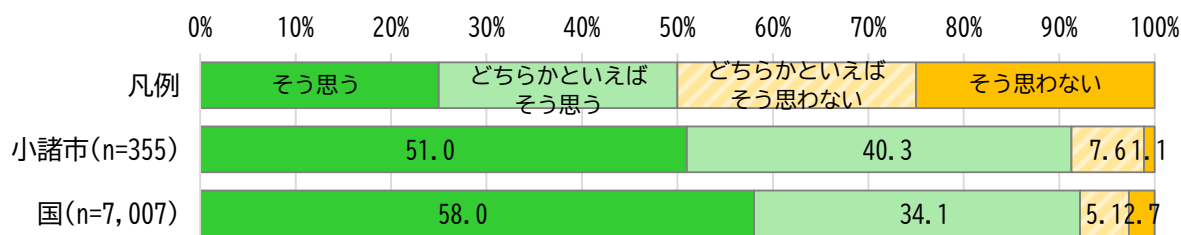
図表 86 自分のことが好きだ



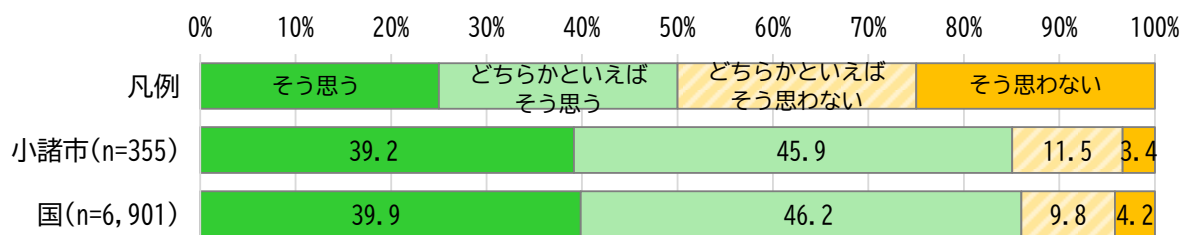
図表 87 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組む



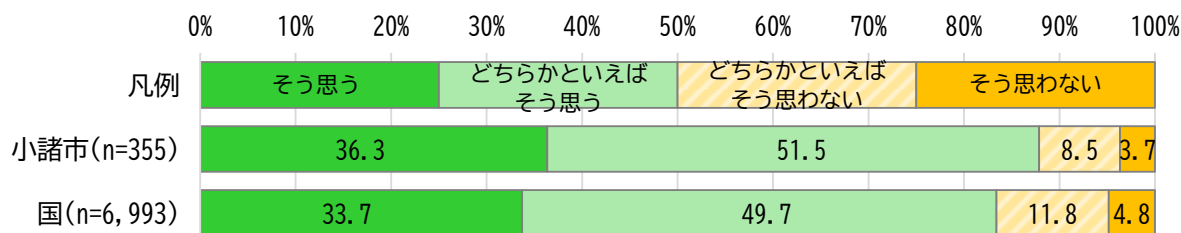
図表 88 家族や周りの人に大事にされている



図表 89 幸せである



図表 90 人や社会の役に立ちたいと思う

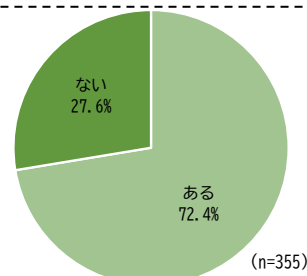


(7) 相談先や悩みごと

- ・今、悩んでいることや心配なことが「ある」との回答は、72.4%であった。
- ・悩みの内容としては、「お金のこと」が最も多く65.0%、次いで「仕事のこと」53.3%、「家族・子育てのこと」40.9%となっている。
- ・年代別にみると、10代は「進学・就職のこと」「勉強のこと」、20代は「お金のこと」「仕事のこと」、30代は「お金のこと」「仕事のこと」に加えて「家族・子育てのこと」の割合が高い。

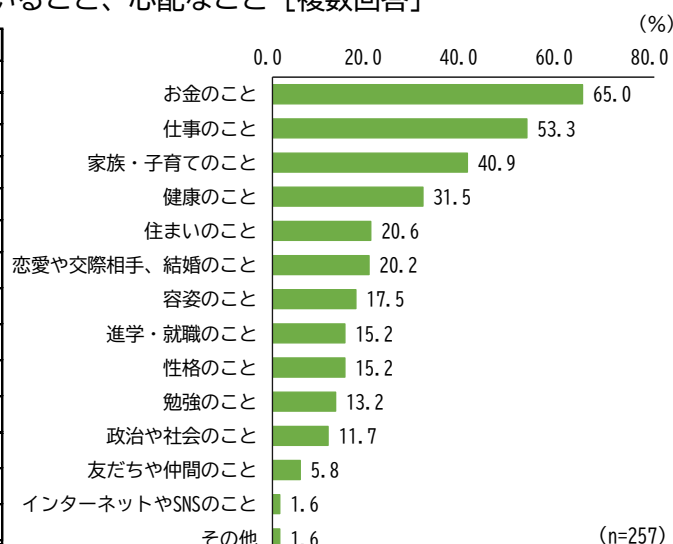
図表 91 今、悩んでいることや心配なこと

	人数	割合(%)
ある	257	72.4
ない	98	27.6
合計	355	100.0

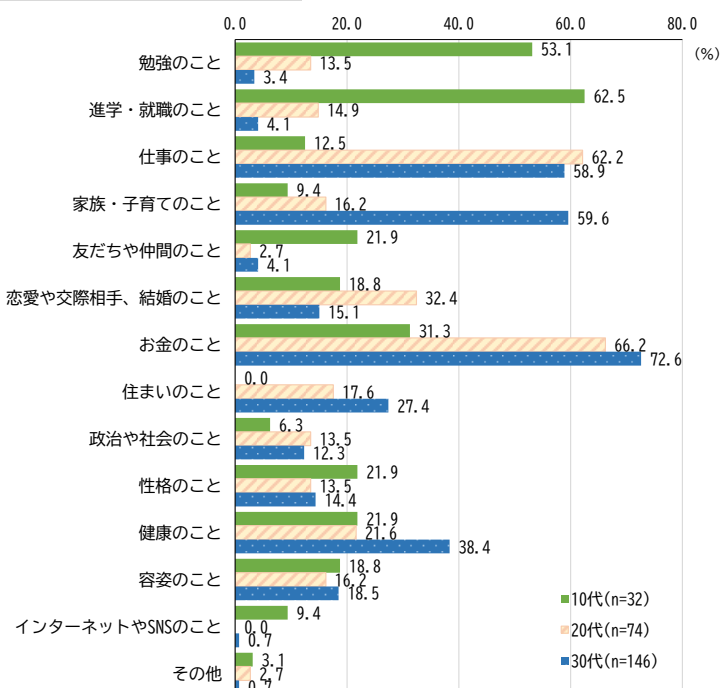


図表 92 回答対象者：あると回答した人 今、悩んでいること、心配なこと〔複数回答〕

	人数	割合(%)
お金のこと	167	65.0
仕事のこと	137	53.3
家族・子育てのこと	105	40.9
健康のこと	81	31.5
住まいのこと	53	20.6
恋愛や交際相手、結婚のこと	52	20.2
容姿のこと	45	17.5
進学・就職のこと	39	15.2
性格のこと	39	15.2
勉強のこと	34	13.2
政治や社会のこと	30	11.7
友だちや仲間のこと	15	5.8
インターネットやSNSのこと	4	1.6
その他	4	1.6
回答者数	257	



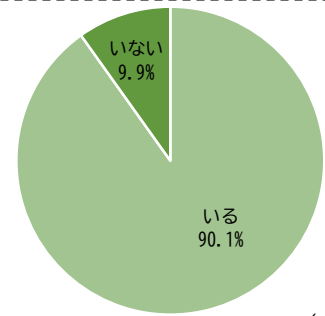
図表 93 年代別 回答対象者：あると回答した人 今、悩んでいること、心配なこと〔複数回答〕



- ・相談する人が「いる」との回答は、90.1%となっている。
- ・相談する人としては、「親」が67.2%と最も高く、次いで「友だち」54.1%、「配偶者・恋人」51.9%となっている。

図表 94 悩んでいることや心配なことを相談する人

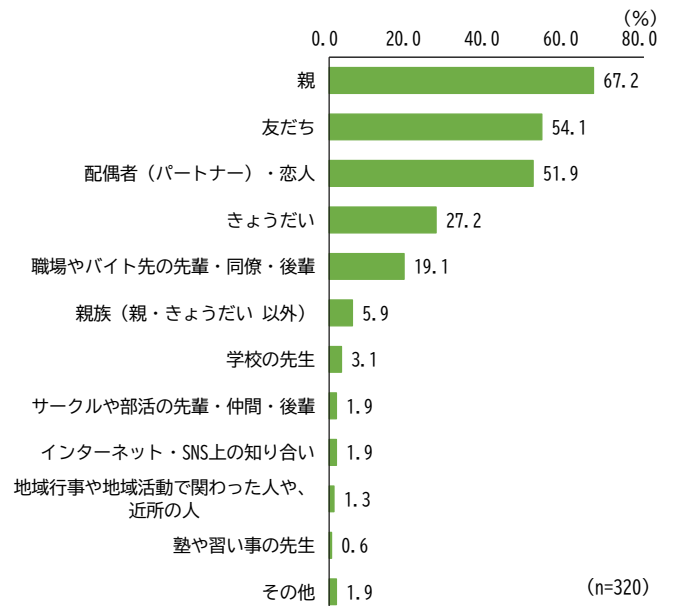
	人数	割合(%)
いる	320	90.1
いない	35	9.9
合計	355	100.0



(n=355)

図表 95 回答対象者：相談する人が「いる」人 相談するのはだれか〔複数回答〕

	人数	割合(%)
親	215	67.2
友だち	173	54.1
配偶者（パートナー）・恋人	166	51.9
きょうだい	87	27.2
職場やバイト先の先輩・同僚・後輩	61	19.1
親族（親・きょうだい 以外）	19	5.9
学校の先生	10	3.1
サークルや部活の先輩・仲間・後輩	6	1.9
インターネット・SNS上の知り合い	6	1.9
地域行事や地域活動で関わった人や、近所の人	4	1.3
塾や習い事の先生	2	0.6
その他	6	1.9
回答者数	320	

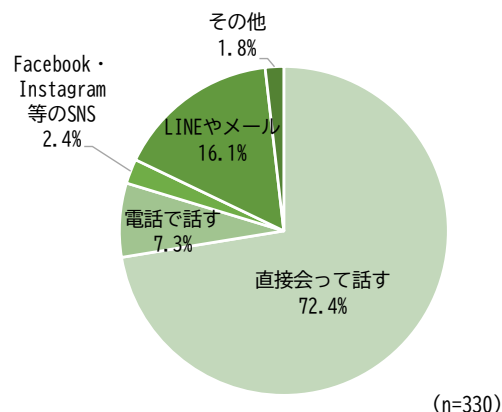


(n=320)

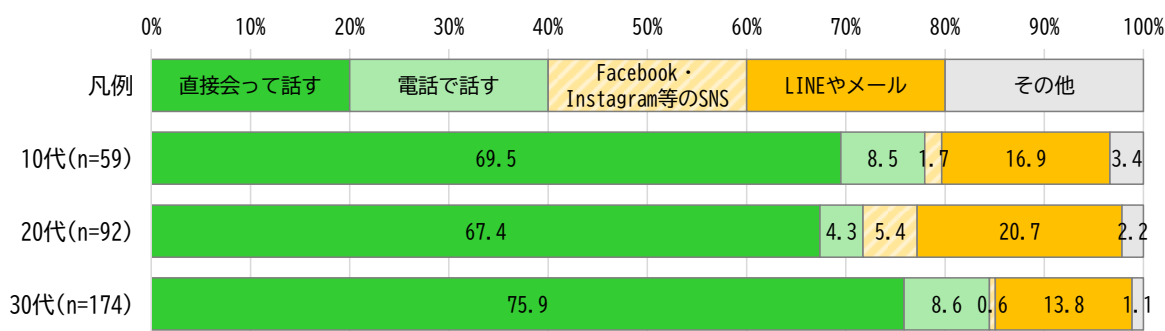
- ・悩みを話す方法としては、「直接会って話す」が72.4%と最も高い。
- ・年代別にみると、どの年代も「直接会って話す」の割合が高いが、10代、20代では「LINEやメール」の割合も2割程度みられる。
- ・自身や身の回りの人が困っていることは「特にいない」は65.0%である。困っていることとしては「経済的に困窮していること」が18.5%、「家族の介護やケアなどのこと」が13.7%となっている。

図表 96 悩みを話す方法

	人数	割合(%)
直接会って話す	239	72.4
電話で話す	24	7.3
Facebook・Instagram等のSNS	8	2.4
LINEやメール	53	16.1
その他	6	1.8
合計	330	100.0

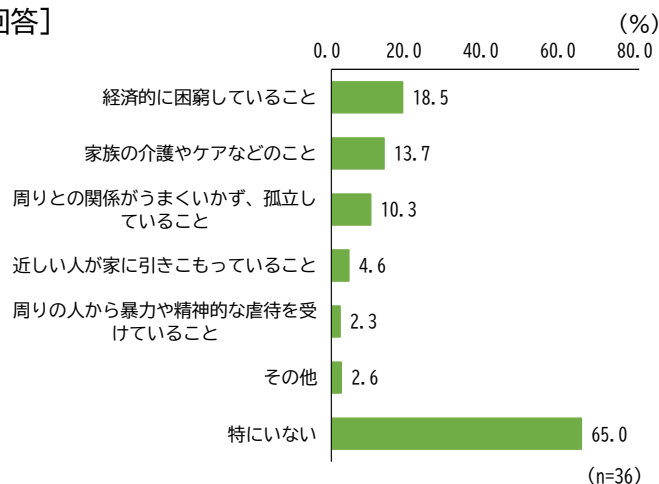


図表 97 年代別 悩みを話す方法



図表 98 自身や身の回りの人が困っていること〔複数回答〕

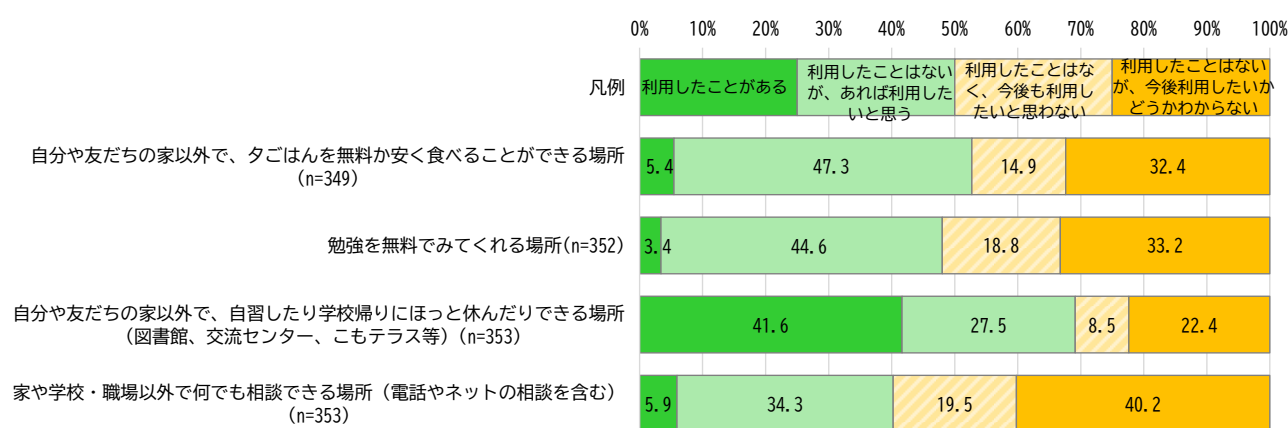
	人数	割合(%)
経済的に困窮していること	65	18.5
家族の介護やケアなどのこと	48	13.7
周りとの関係がうまくいかず、孤立していること	36	10.3
近しい人が家に引きこもっていること	16	4.6
周りの人から暴力や精神的な虐待を受けていること	8	2.3
その他	9	2.6
特にいない	228	65.0
回答者数	351	



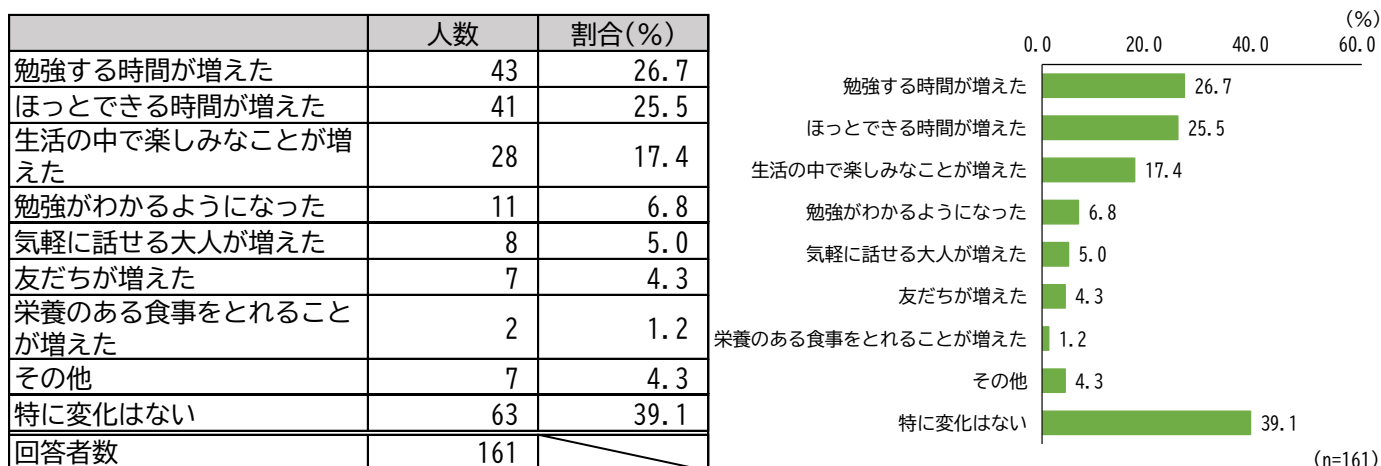
(8) 施設・サービスの利用

- 若者向けの施設・サービスのうち、利用したことがある場所は「自分や友だちの家以外で、自習したり学校帰りにほっと休んだりできる場所（図書館、交流センター、こもテラス等）」が41.6%となっている。
- 利用したことはないがあれば利用したい場所の割合をみると、「自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所」が47.3%で最も高く、次いで「勉強を無料でみてくれる場所」が44.6%となっている。
- いずれかの場所を利用したことがある人に、その場所を利用したことで生じた変化をきいたところ、最も割合が高いのが「勉強する時間が増えた」で26.7%、次いで「ほっとできる時間が増えた」で25.5%などとなっている。

図表 99 以下の施設やサービスの利用の有無と利用希望



図表 100 回答対象者：いずれかの場所を利用したことがある人
その場所を利用したことで生じた変化〔複数回答〕

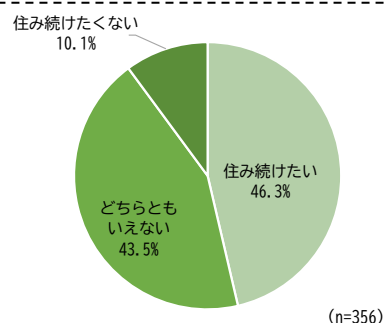


(9) 小諸市への定住意向

- 小諸市への定住意向は、「住み続けたい」46.3%、「住み続けたくない」10.1%となっている。
- 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、「住み続けたい」の割合が低く「どちらともいえない」の割合が高くなっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「住み続けたい」割合は高くなり、「どちらともいえない」の割合が下がっている。
- 居場所との関係を見ると、「住み続けたい」と回答した人で「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」が居場所となっている。

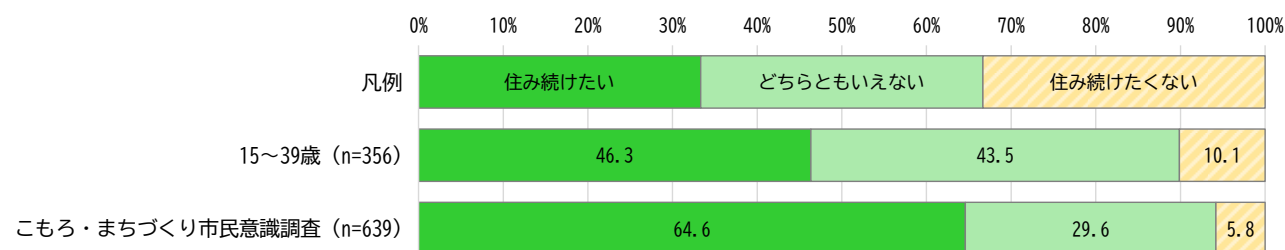
図表 101 小諸市への定住意向

	人数	割合(%)
住み続けたい	165	46.3
どちらともいえない	155	43.5
住み続けたくない	36	10.1
合計	356	100.0

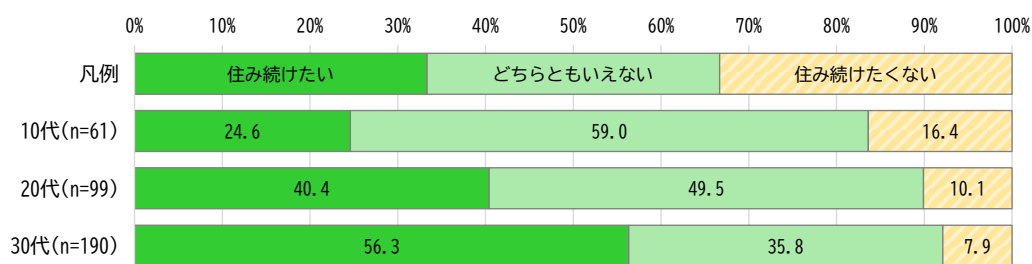


図表 102 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査との比較 小諸市への定住意向

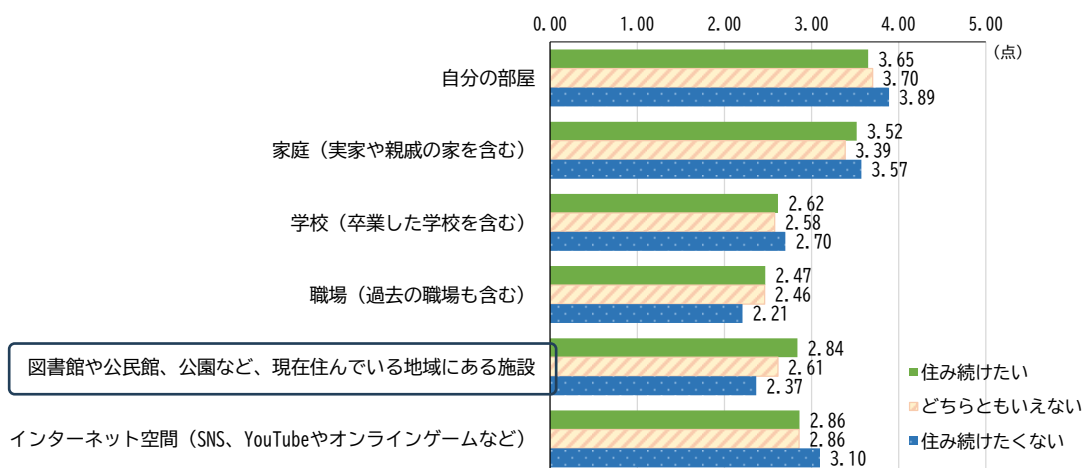
※調査概要は次ページ参照



図表 103 年代別 小諸市への定住意向



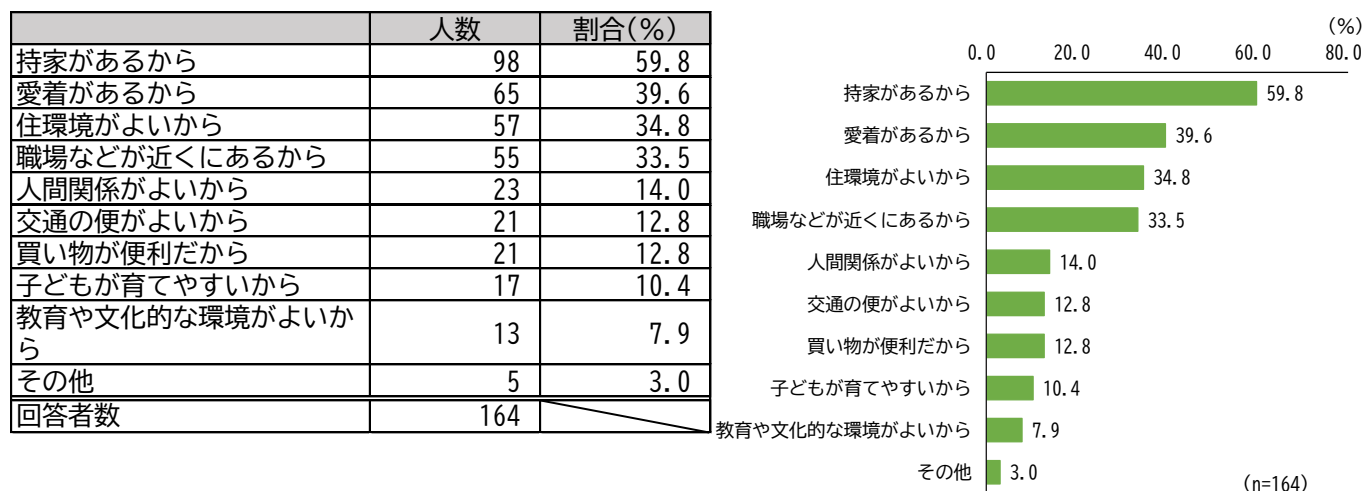
図表 104 定住意向別 あなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）であるか



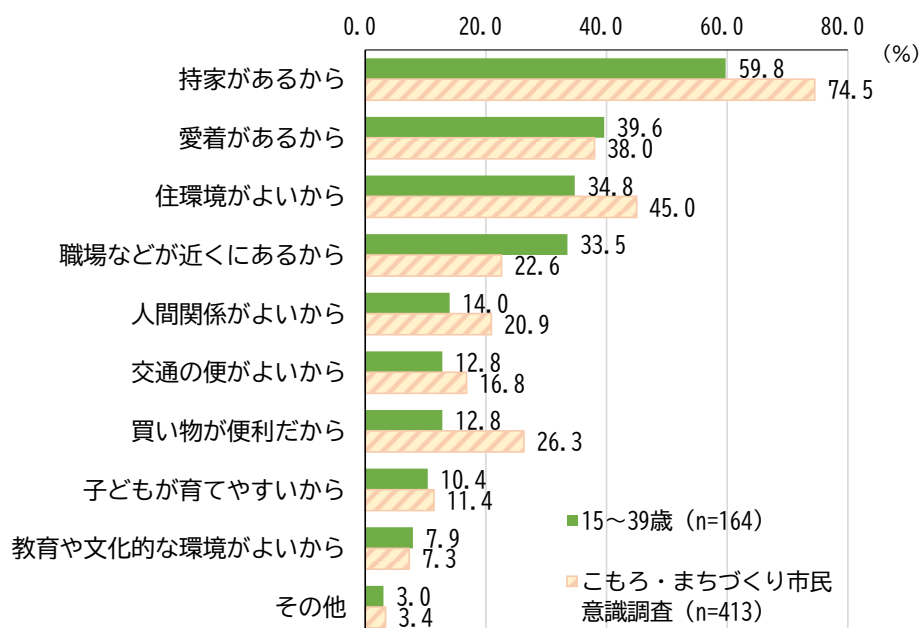
※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

- ・住み続けたい理由は、「持ち家があるから」59.8%、「愛着があるから」39.6%、「住環境がよいから」34.8%などとなっている。
- ・令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、10ポイント以上の違いがあるのは「持ち家があるから」「住環境がよいから」「買い物が便利だから」であり、本調査（15～39歳）で特に低くなっている。

図表 105 回答対象者：住み続けたい人 住み続けたい理由〔複数回答〕



図表 106 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査との比較
回答対象者：住み続けたい人 住み続けたい理由〔複数回答〕

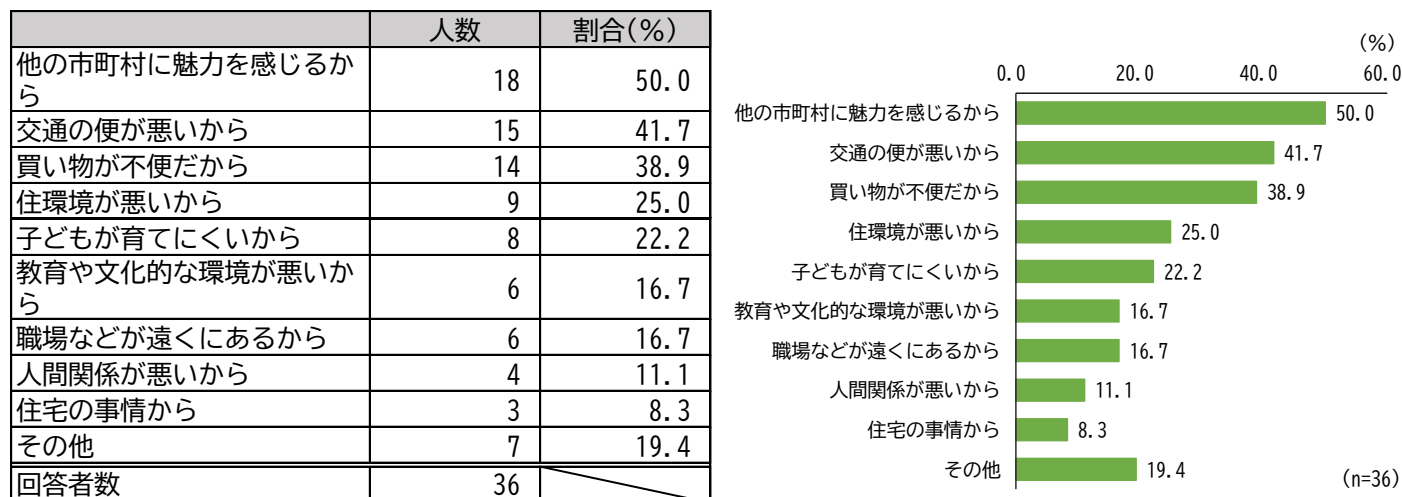


令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査の調査概要

- 調査対象：16歳以上の小諸市民 2,000人
- 抽出方法：令和5年11月9日現在の住民基本台帳から、性別及び年代別の構成比による無作為抽出
- 調査方法：郵送による調査票の発送、同封の返信用封筒での返信による回収
- 調査実施期間：令和5年11月24日（金）～12月15日（金）
- 調査票回収数：650部（インターネット回答 247人）
- 調査票回収率：32.5%（インターネット回答率 12.4%）

- 住み続けたくない理由としては、「他の市町村に魅力を感じるから」50.0%、「交通の便が悪いから」41.7%、「買い物が不便だから」38.9%などとなっている。
- 令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査と比較すると、10ポイント以上の違いがあるのは「交通の便が悪いから」「人間関係が悪いから」であり、本調査（15～39歳）の方が低くなっている。
- 本調査（15～39歳）では「他の市町村に魅力を感じるから」が最上位であるが、市民意識調査では「交通の便が悪いから」が最上位になっている。

図表 107 回答対象者：住み続けたくない人 住み続けたくない理由〔複数回答〕



図表 108 令和5年度 こもろ・まちづくり市民意識調査との比較

回答対象者：住み続けたくない人 住み続けたくない理由〔複数回答〕

